

お知らせ:次回発信日は6月20日週報(予定)

Jミルクが2024年5月31日に公表した「需給見通し(※2024年3月迄実績)」の予測値と実績(牛乳乳製品統計)をグラフ化しています。

「牛乳乳製品統計(農林水産省)」の公表に併せて、今後も毎月配信していきます。

発行:一般社団法人Jミルク生産流通グループ

・4月の生乳需給実績について、飲用等向(日均量)はこれまでの傾向と同様に前年を下回り前年同期比▲1.7%となった。一方、生乳供給量(日均量)は3カ月連続で前年を上回り+1.1%となった。このため、乳製品向(日均量)は+4.1%と4カ月連続で前年を上回った。指定団体受託乳量(速報)では、北海道(ホクレン)が5月下旬(最新)に▲0.4%(日均量)と1月中旬以降、約4月ぶりに前年を下回った。都府県は+0.3%(日均量)と増産基調を維持したが、全国では前年同期差▲25ト(日均量)と、2月上旬以来約3カ月ぶりに前年を下回った。

・脱脂粉乳の需給については、生乳供給量の回復に伴い4月の生産量は前年比+9.4%と大きく増加した。推定出回り量は▲9.3%と前年を下回り、在庫量は前月から3千ト程度増加し51.0千トとなった。一方、バターは4月の生産量が7.3千ト(+10.8%)、推定出回り量が6.4千ト(▲18.0%)となった。バターの生産量が前年を上回るのは4カ月連続。国家貿易による輸入売渡分(約0.6千ト)も考慮すると、在庫量は前月から1.5千ト程度増加し、25.9千ト(▲10.7%)となった。在庫量は25カ月連続で前年を下回っている。12月の取引乳価引き上げに伴うバターなどの製品価格改定は2月中旬ごろをピークに落ち着いたものの、販売個数は伸び悩んでいる。

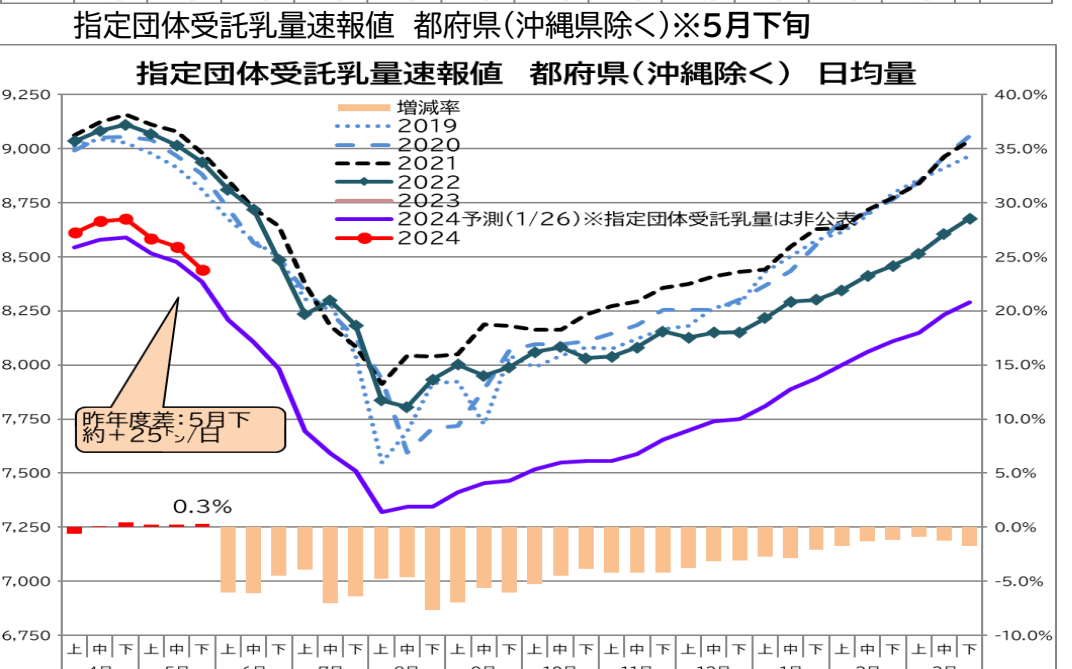
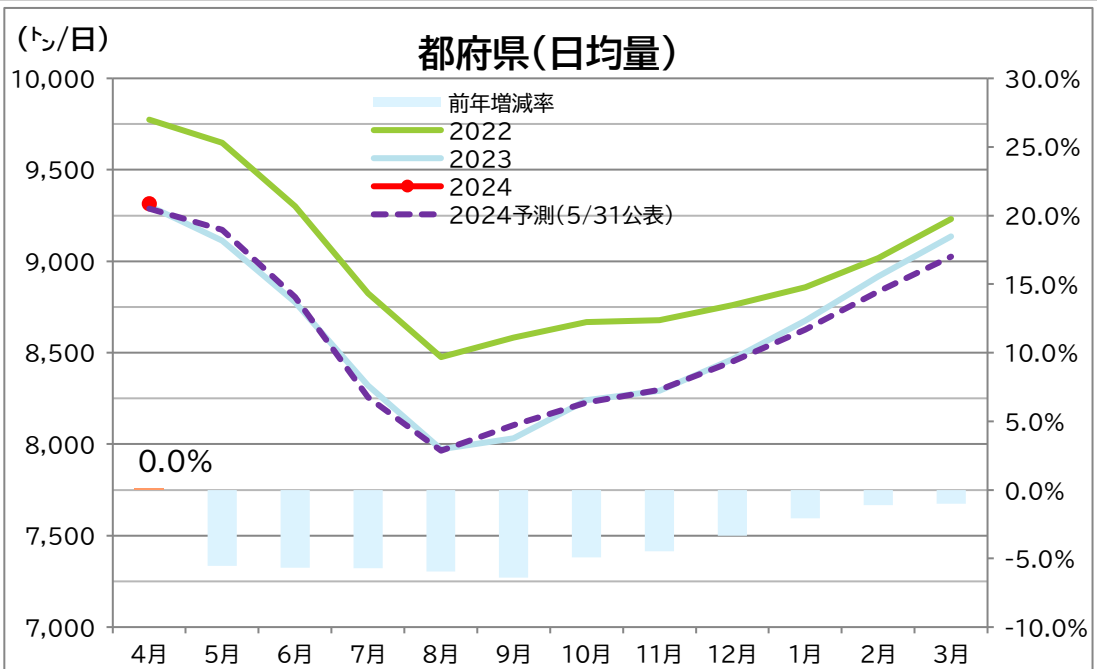
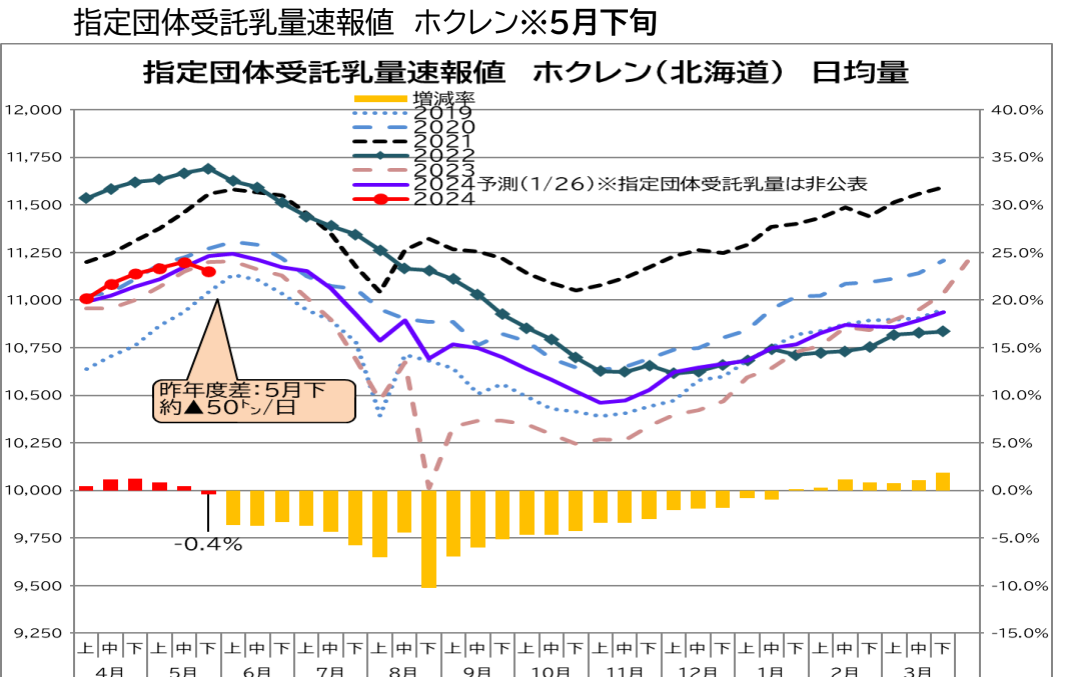
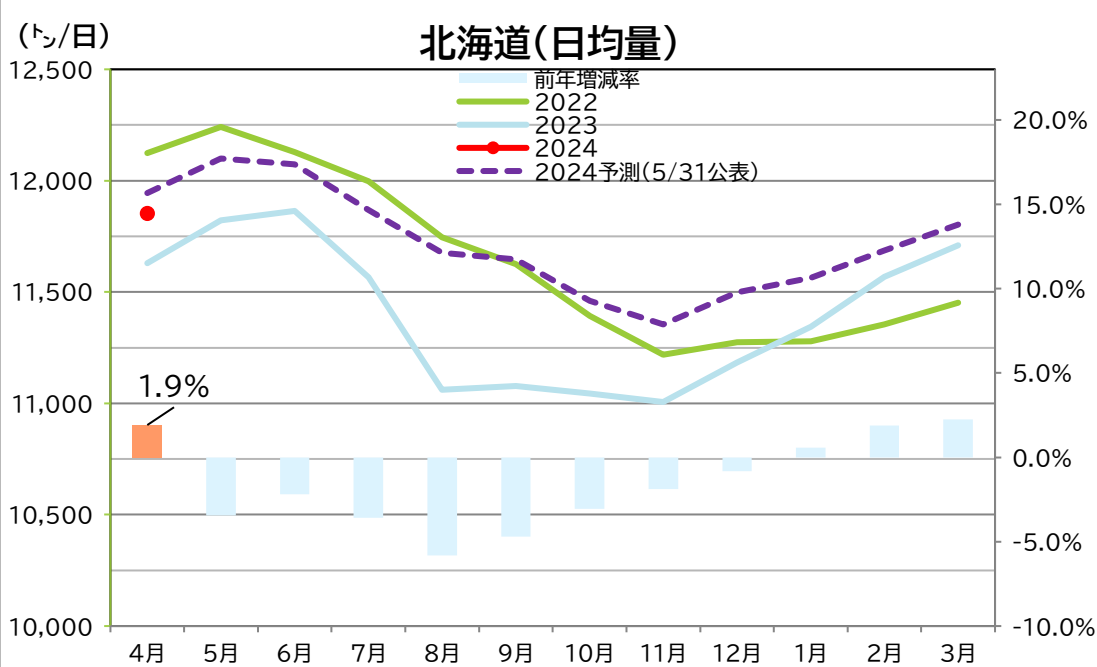
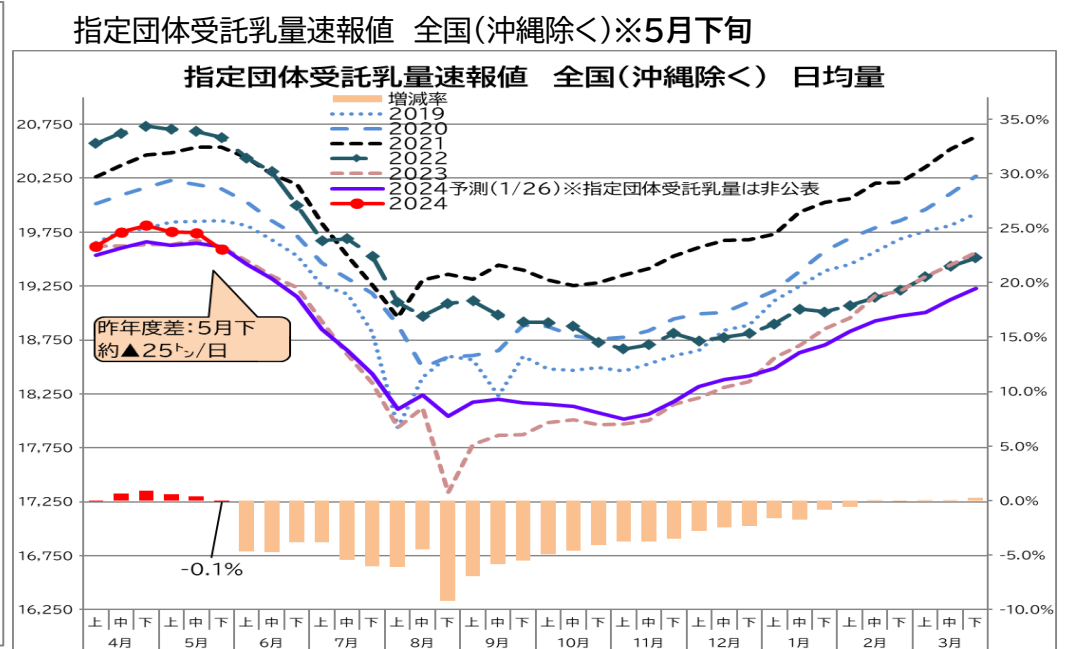
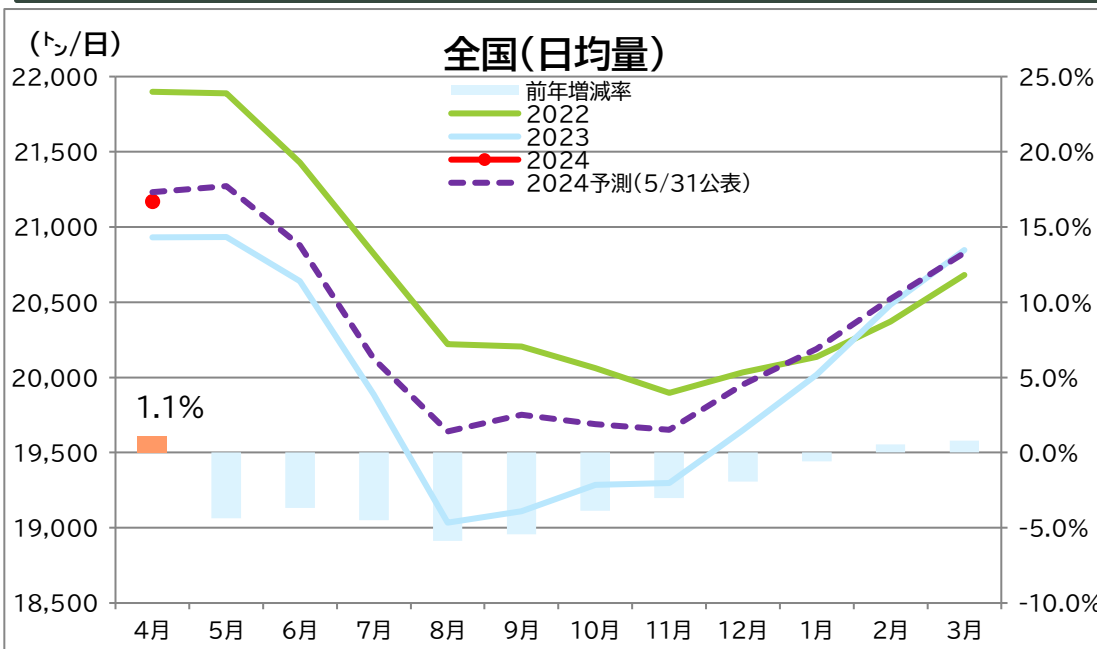
・牛乳類の販売動向については、5月は気温の上昇に伴い4月より消費は伸びたものの影響は限定的で、前年比では下回って推移している。一方、はっ酵乳の大容量タイプは、5/13週以降4週連続で前年を上回って推移している。梅雨入りがかなり遅い地域もあるとの予報であるが、6月の牛乳月間を機に、牛乳乳製品の消費拡大に向けた取り組みを強化することが重要と考えられる。

※需給短信の週次販売データは、(株)インテージの「SRI+週データ」を活用しておりますが2024年6月以降、販売データの対象となる業態について、ホームセンターのうちディスカウント型店舗が対象外となりました。販売本数は、過去のデータにも週次ディスカウント型店舗の本数を除外するように修正しておりますのでご留意願います。

【生乳生産量】※増減率は、日均量で算出。

(1)4月の生乳生産量は、全国635.0千ト(前年同月比101.1%)、北海道355.6千ト(同101.9%)、都府県279.4千ト(同100.0%)。

(2)Jミルク予測値(全国637.0千ト、北海道358.4千ト、都府県278.6千ト)との比較は北海道が下振れした一方、都府県が上振れとなった。

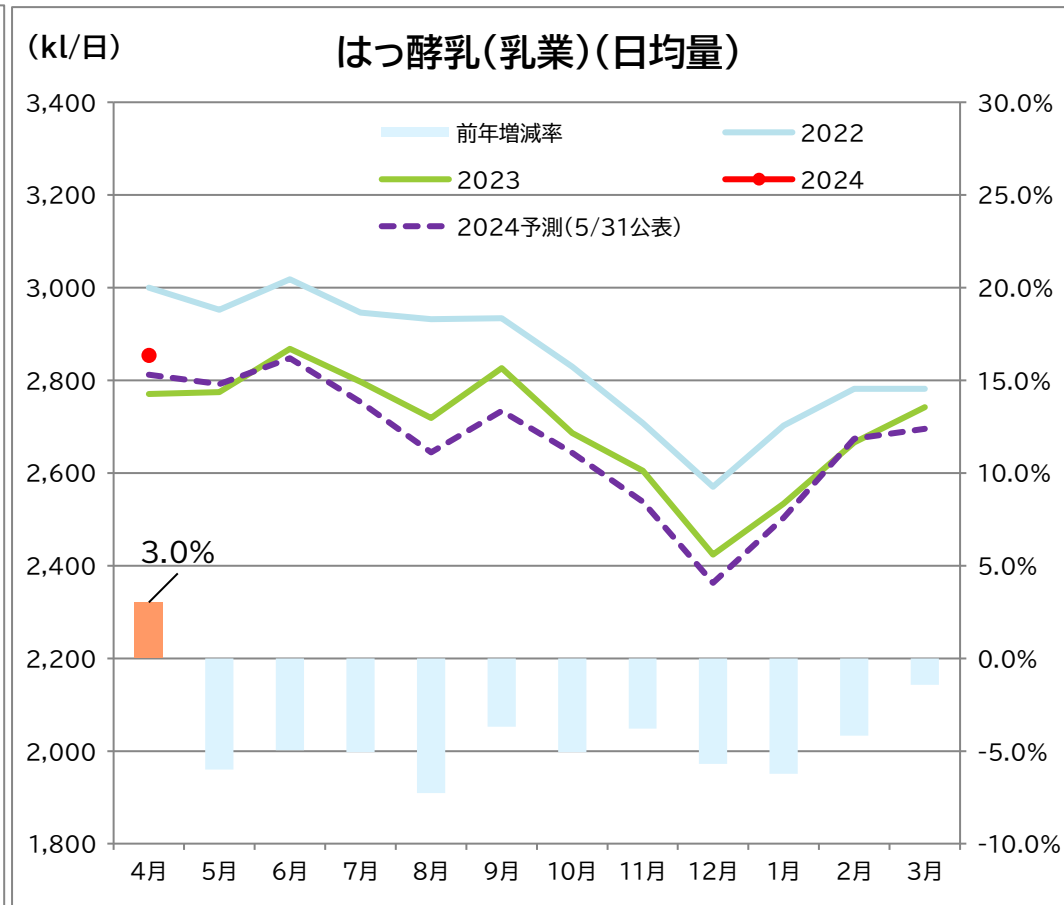
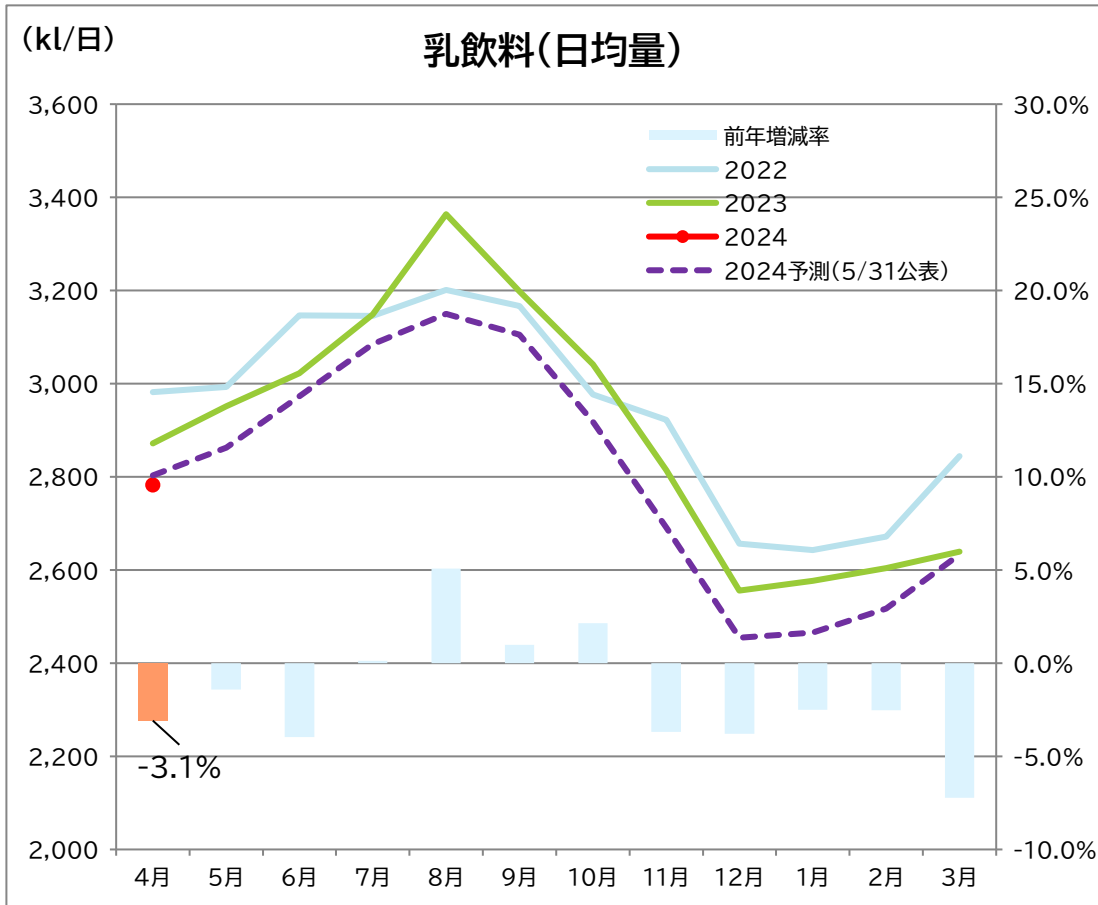
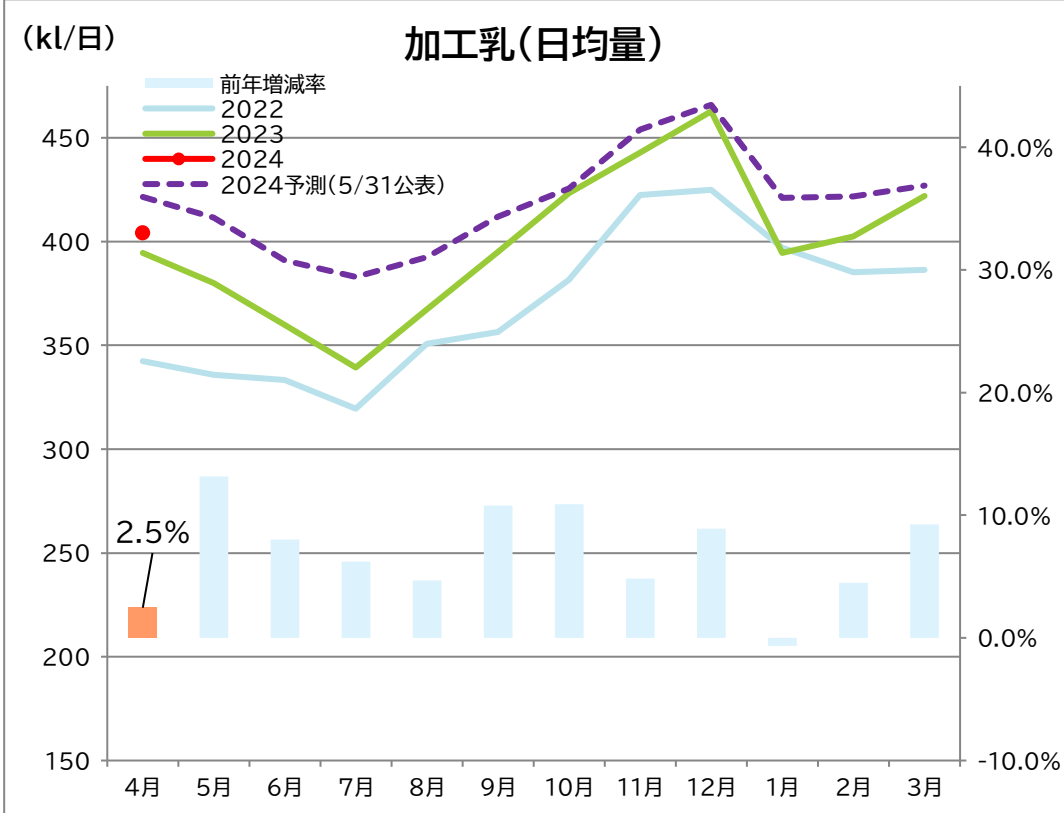
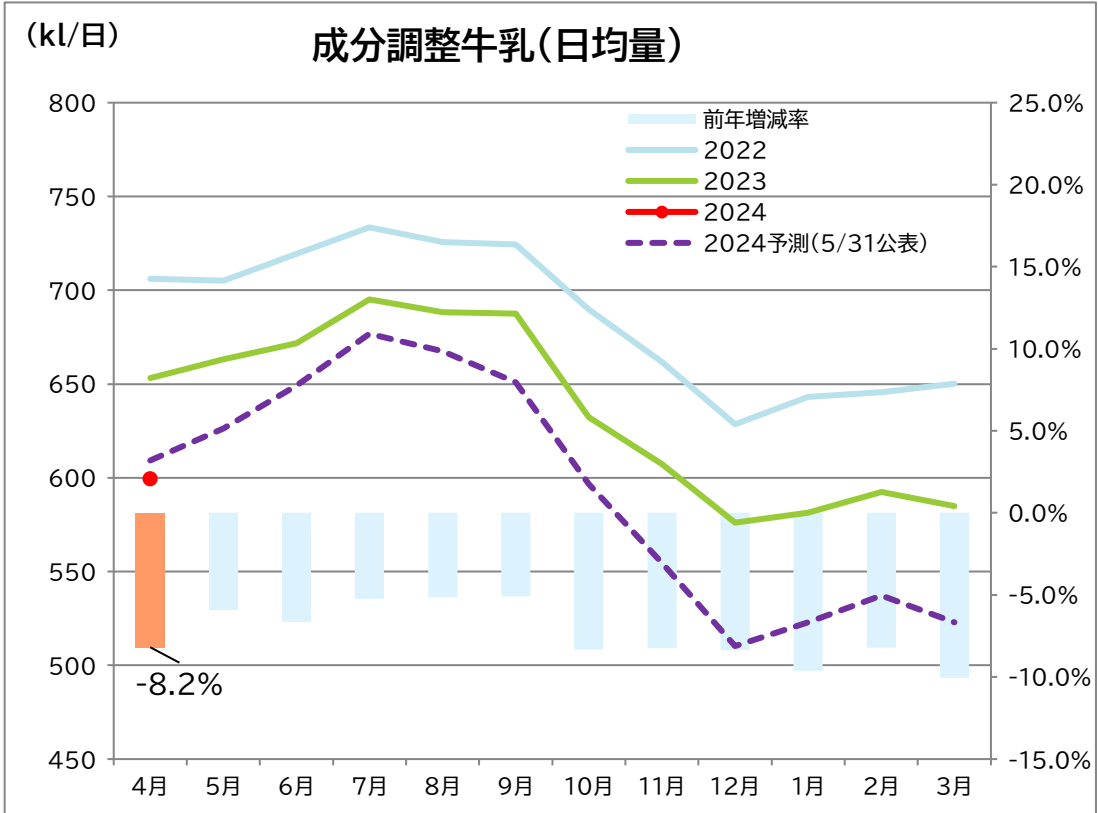
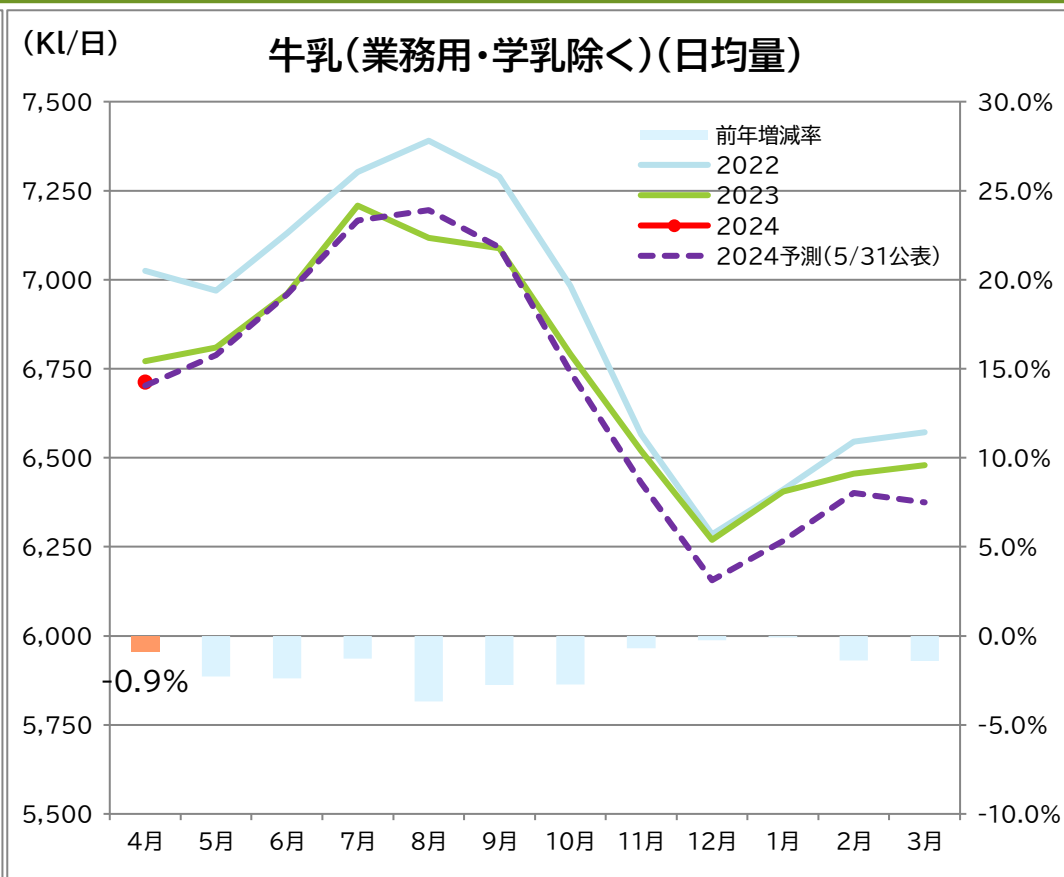
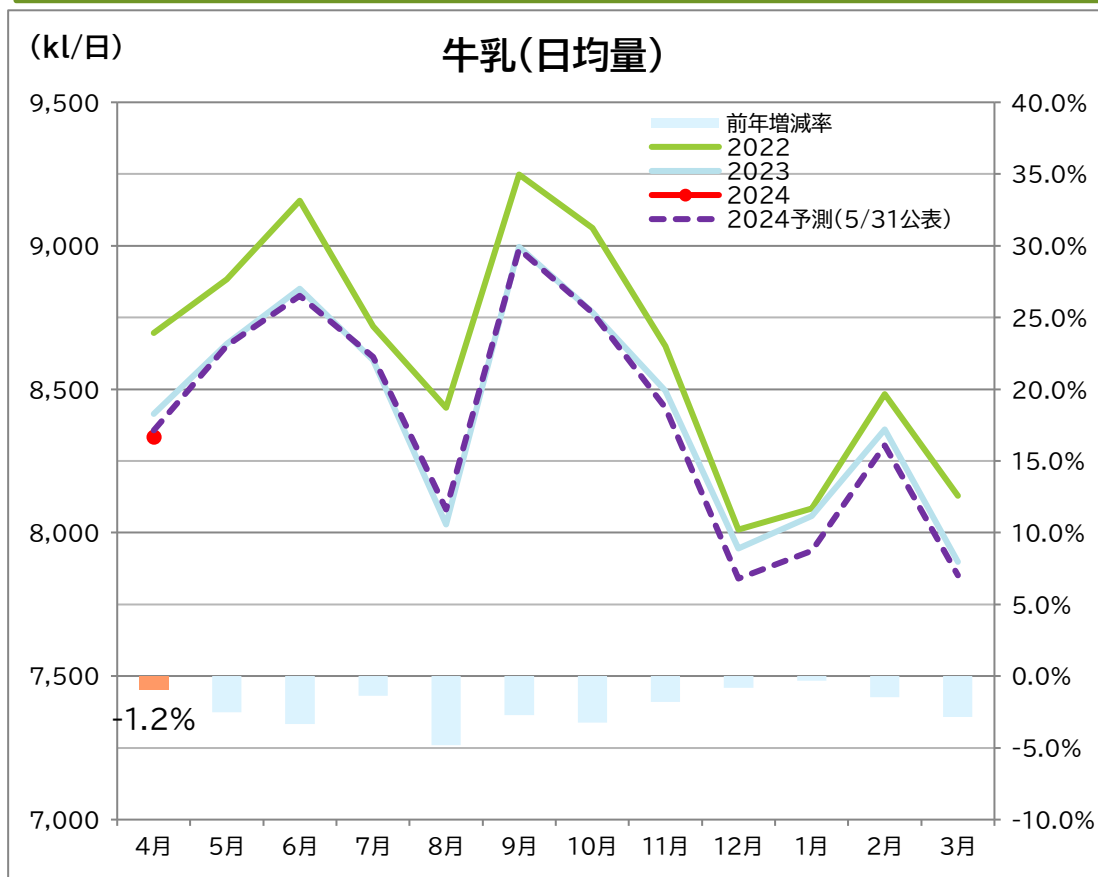


【牛乳等生産量】 ※増減率は、日均量で算出。

(1)4月の牛乳等生産量は、牛乳250.0千kl(前年同月比98.8%)、成分調整牛乳18.0千kl(同91.8%)、加工乳12.1千kl(同102.5%)、乳飲料83.5千kl(同96.9%)。牛乳類合計(牛乳・成分調整牛乳・加工乳・乳飲料)では、363.6千kl(同98.3%)となり、17カ月連続で前年を下回った。

(2)「牛乳」のうち、「業務用以外」は、同99.1%、「業務用」は同98.4%、「学乳」は99.0%。

(3)はっ酵乳(乳業)は85.6千kl(同103.0%)と2020年12月以来、約3年ぶりに前年を上回った。はっ酵乳(非乳業:3月実績)は95.8%となった。

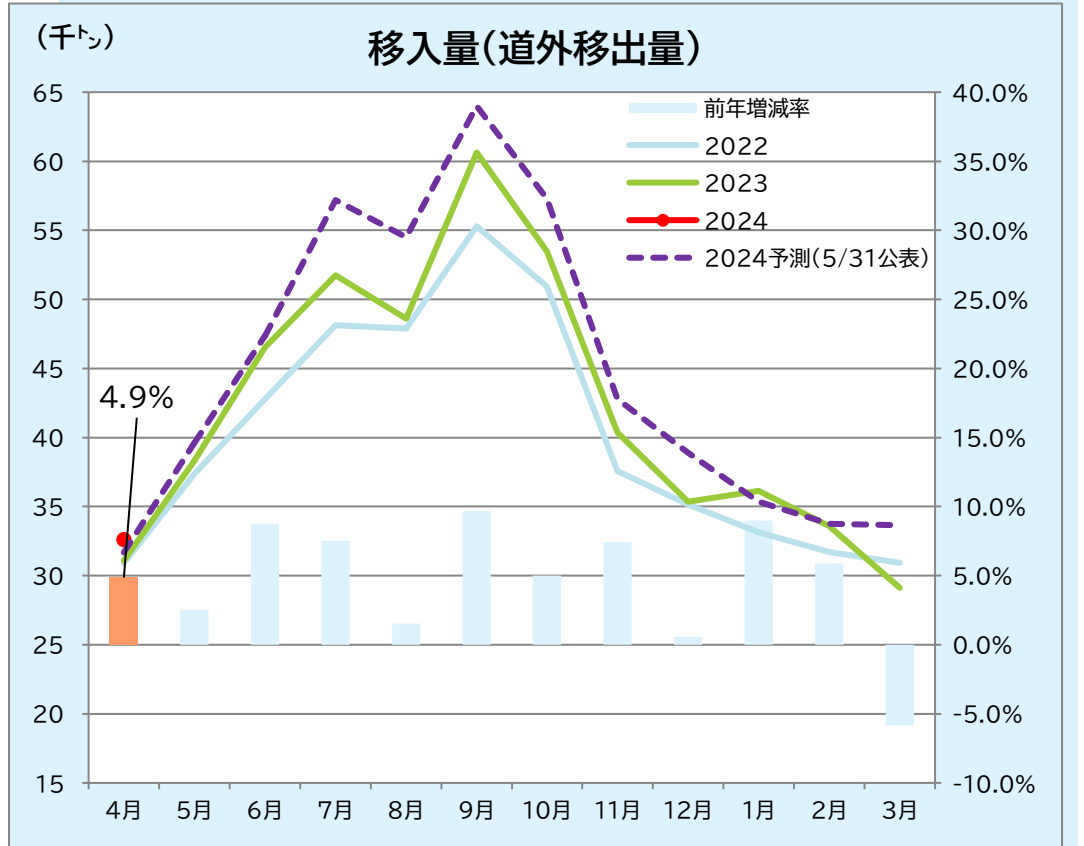
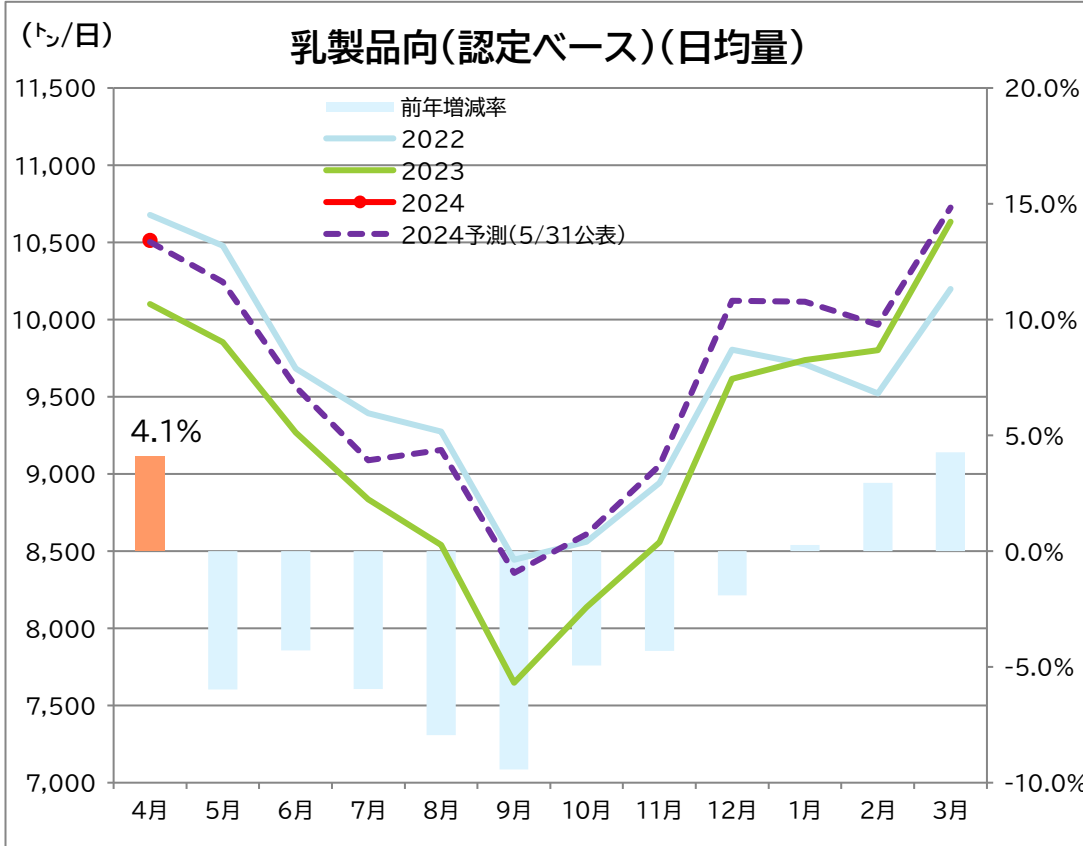
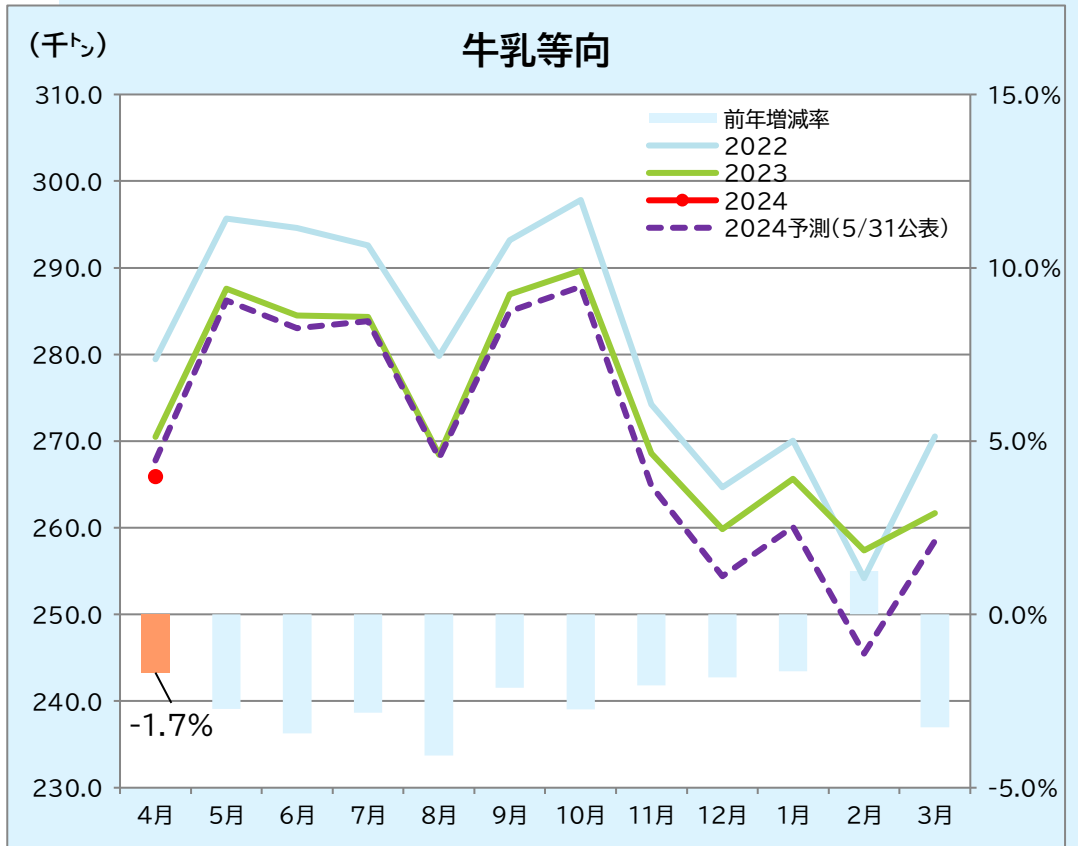
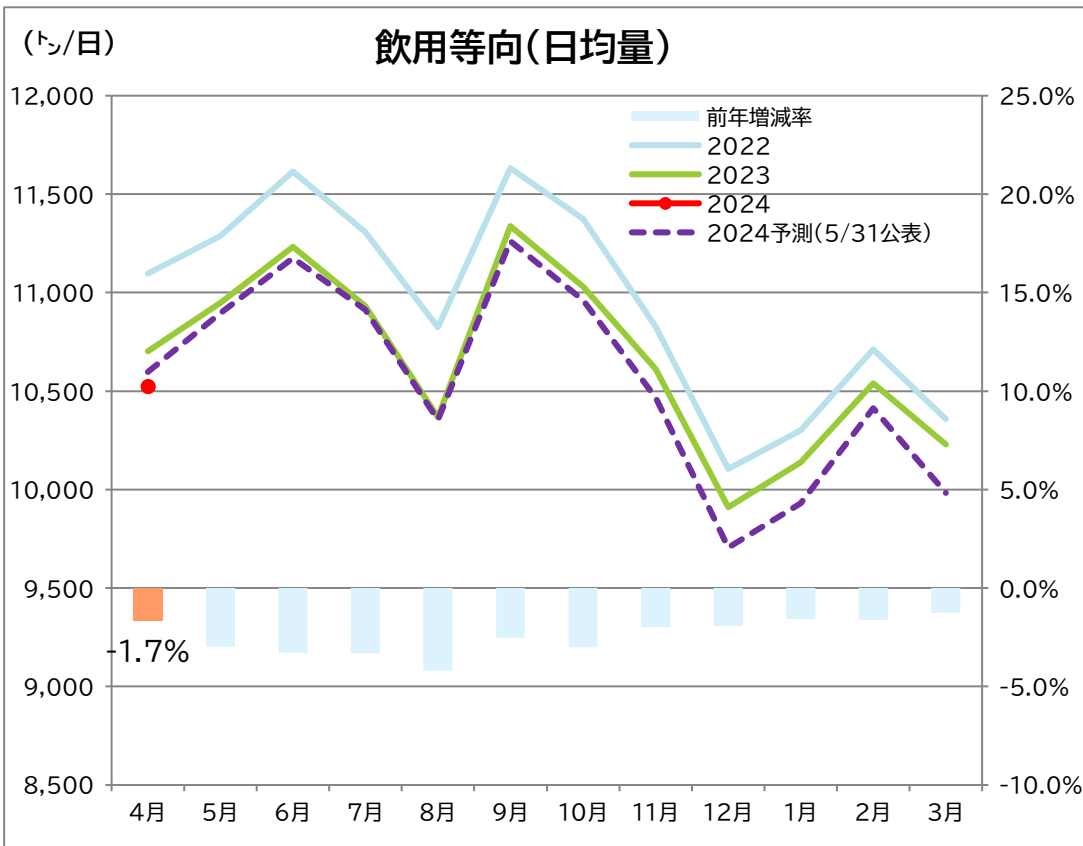
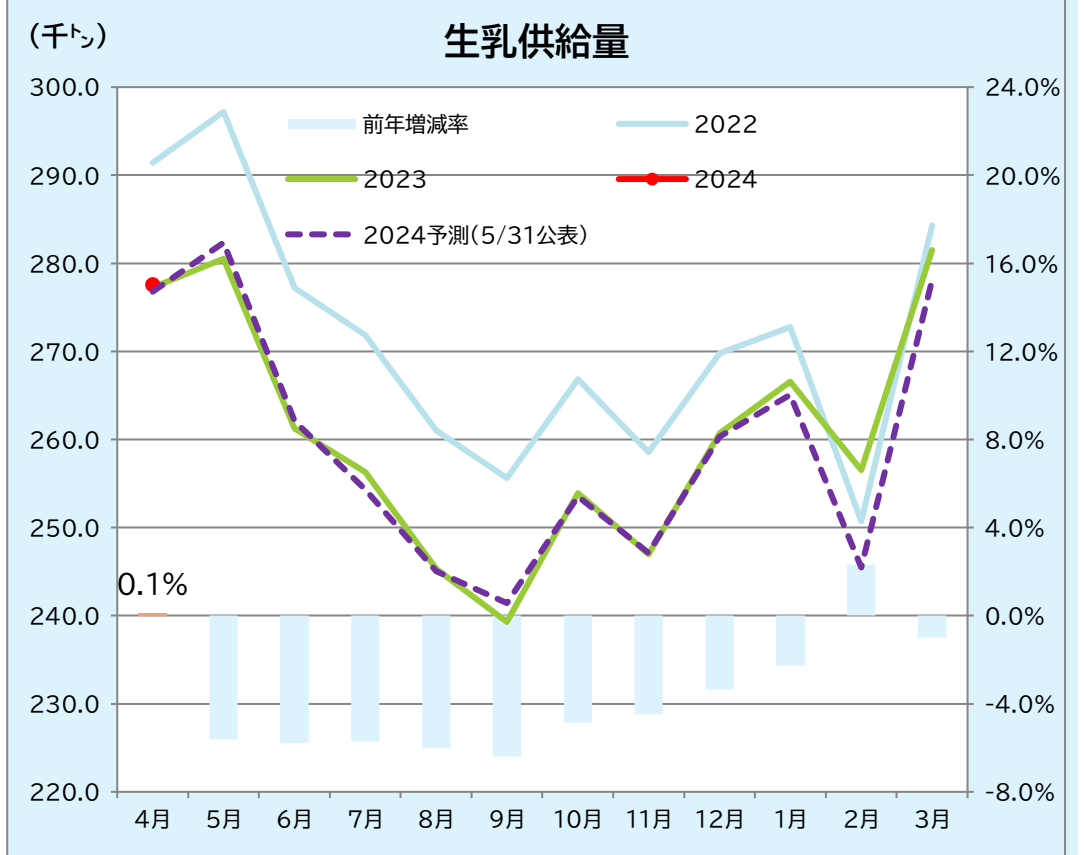
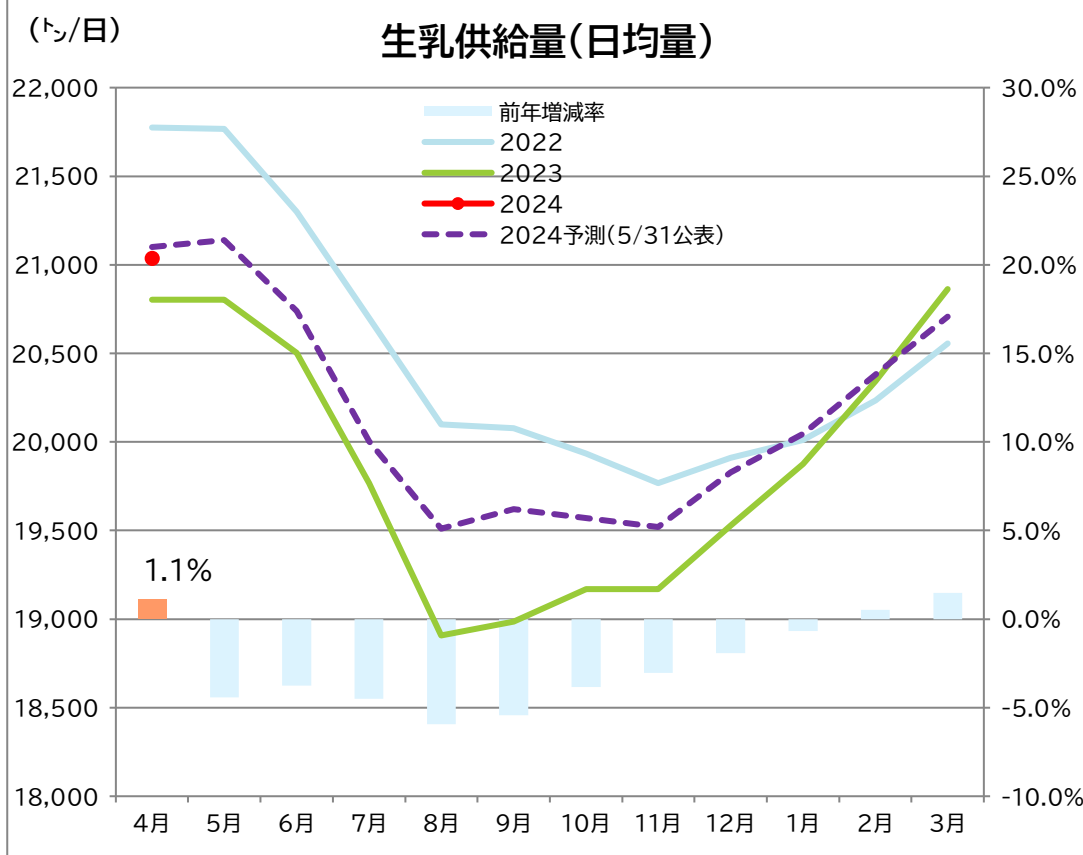


【用途別処理量(全国)】 ※増減率は、日均量で算出。

(1)4月の生乳供給量は631.1千ト(前年同月比101.1%)、飲用等向315.7千ト(同98.3%)、乳製品向(認定ベース)315.4千ト(同104.1%)。
 (2)飲用等向は前年を下回った一方、生乳供給量は前年を上回り、乳製品向も前年を上回った。
 (3)予測値との比較では、生乳供給量(予測値:633.0千ト)、飲用等向(予測値:317.9千ト)は下振れした一方、乳製品向(予測値:315.1千ト)は若干上振れとなった。

【都府県の生乳需給】

(1)4月は、生乳供給量277.6千ト(前年同月比100.1%)、牛乳等向265.9千ト(同98.3%)。
 (2)北海道からの移入量については32.6千ト(同104.9%)と前年を上回った。
 (3)予測値との比較では、生乳供給量(予測値:276.8千ト)、牛乳等向(予測値:267.8千ト)はいずれもほぼ同水準となったことから、北海道からの移入量(予測値:31.7千ト)もほぼ同水準となった。

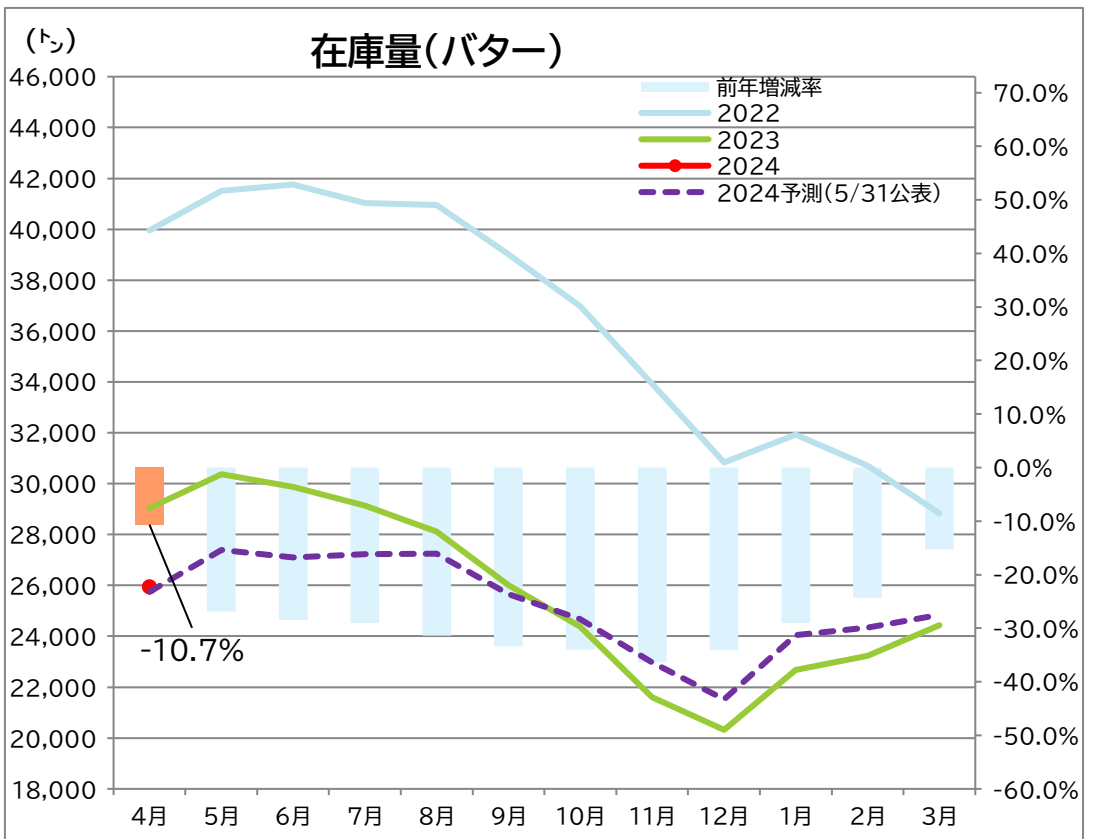
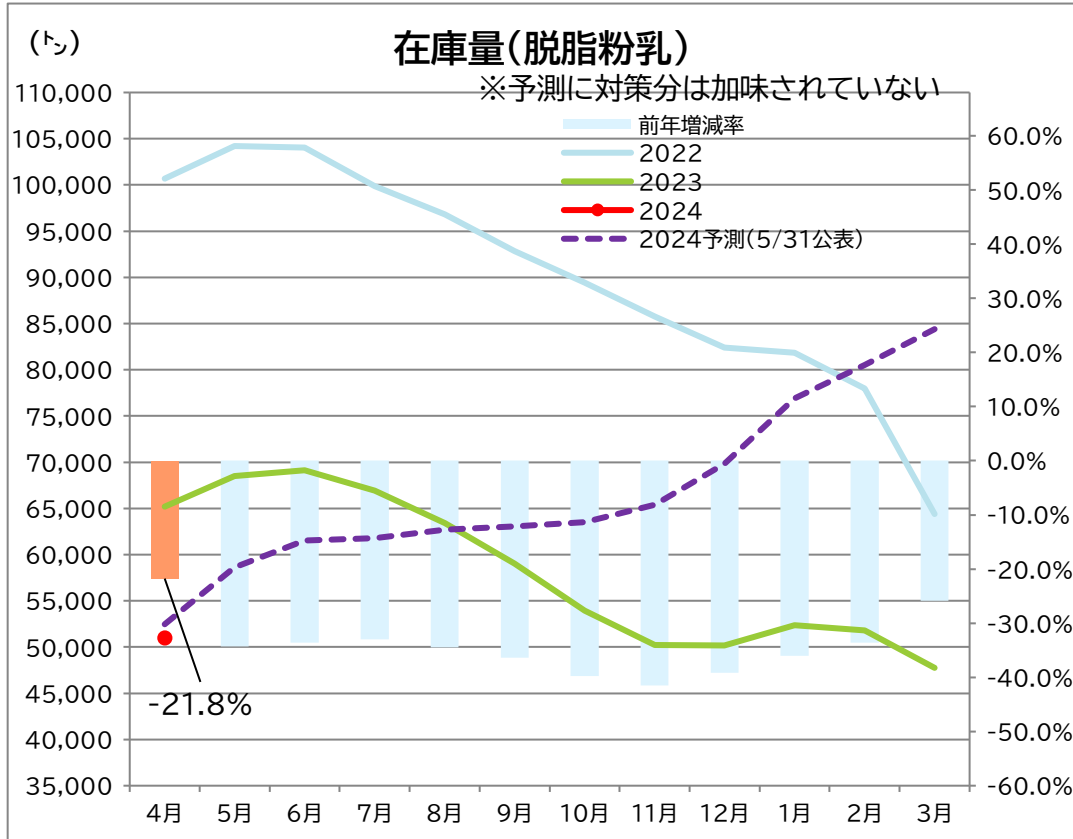
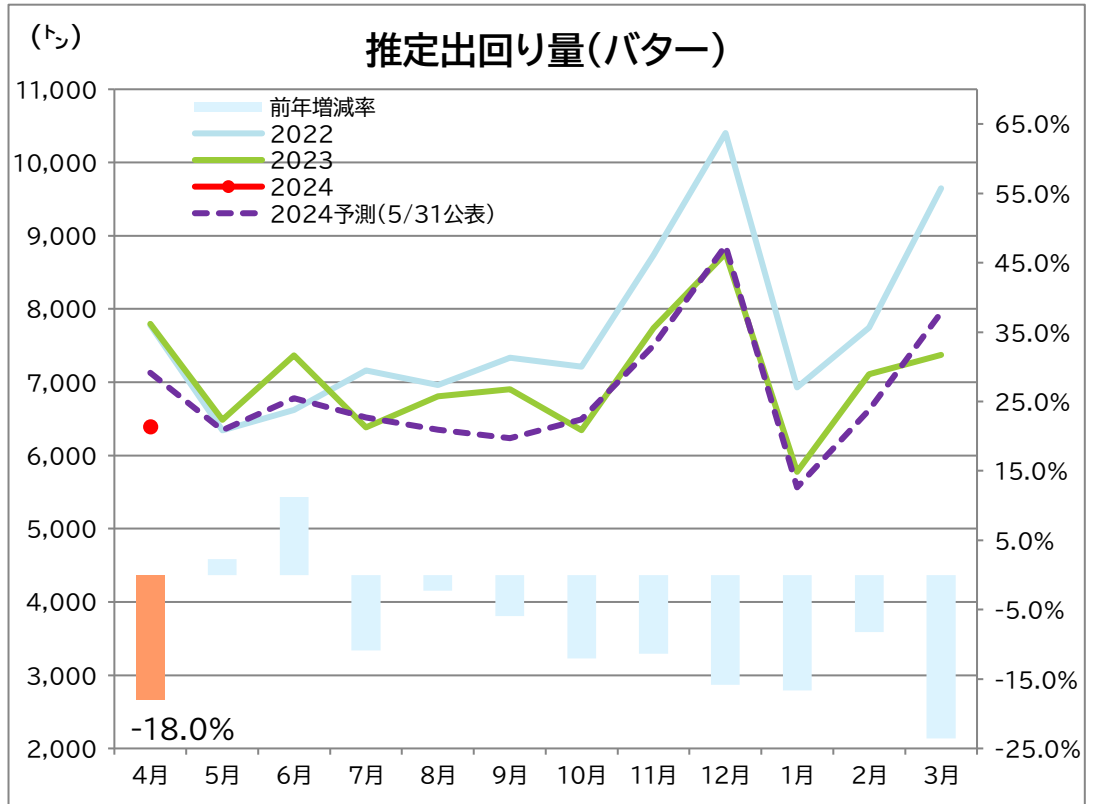
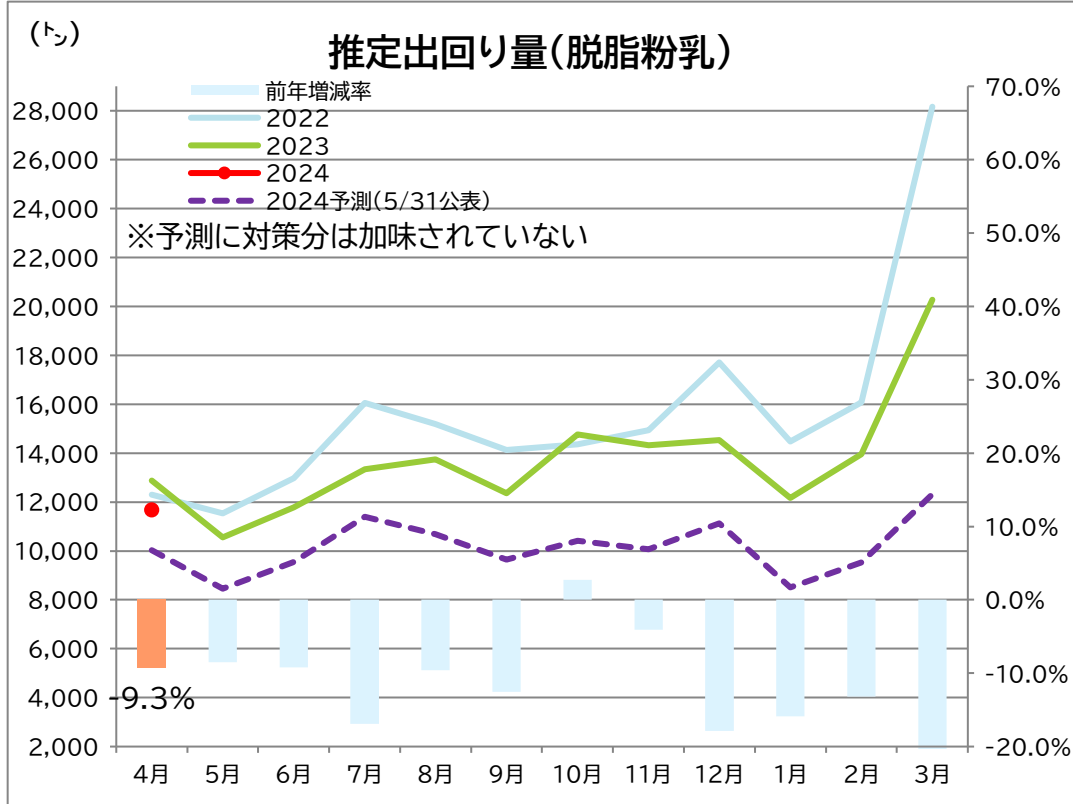
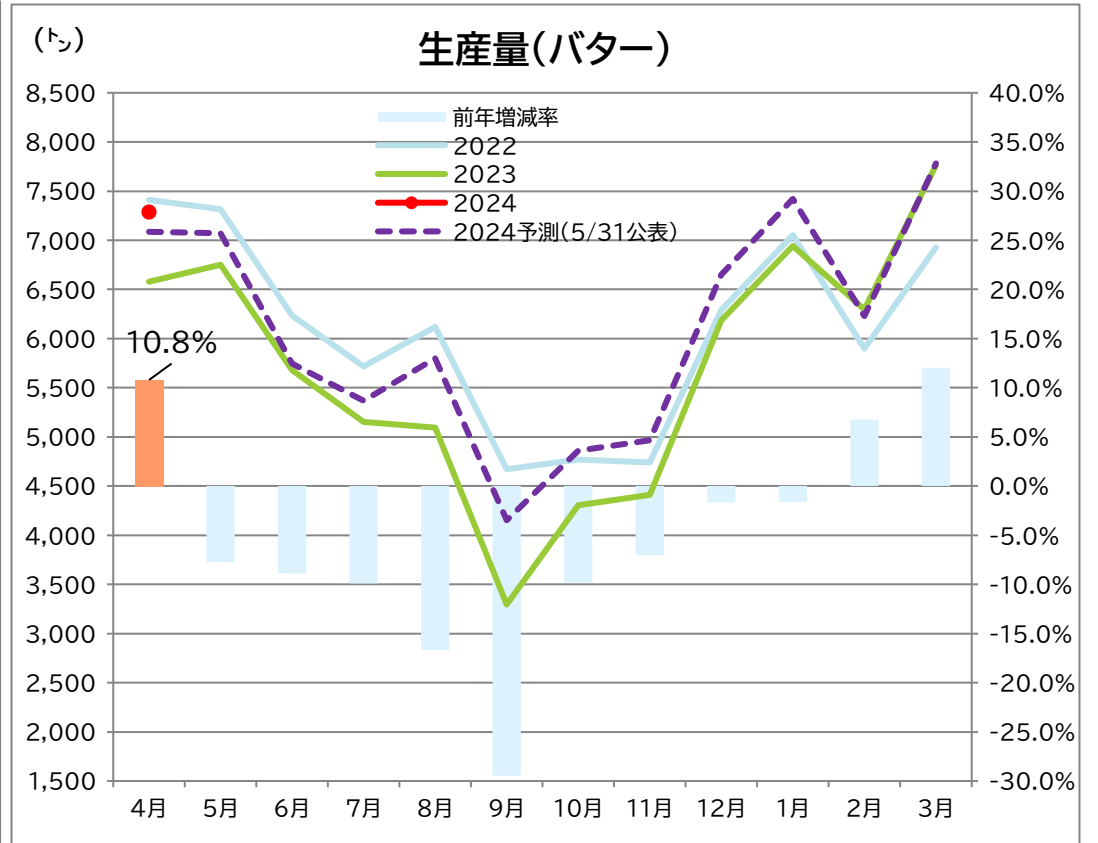
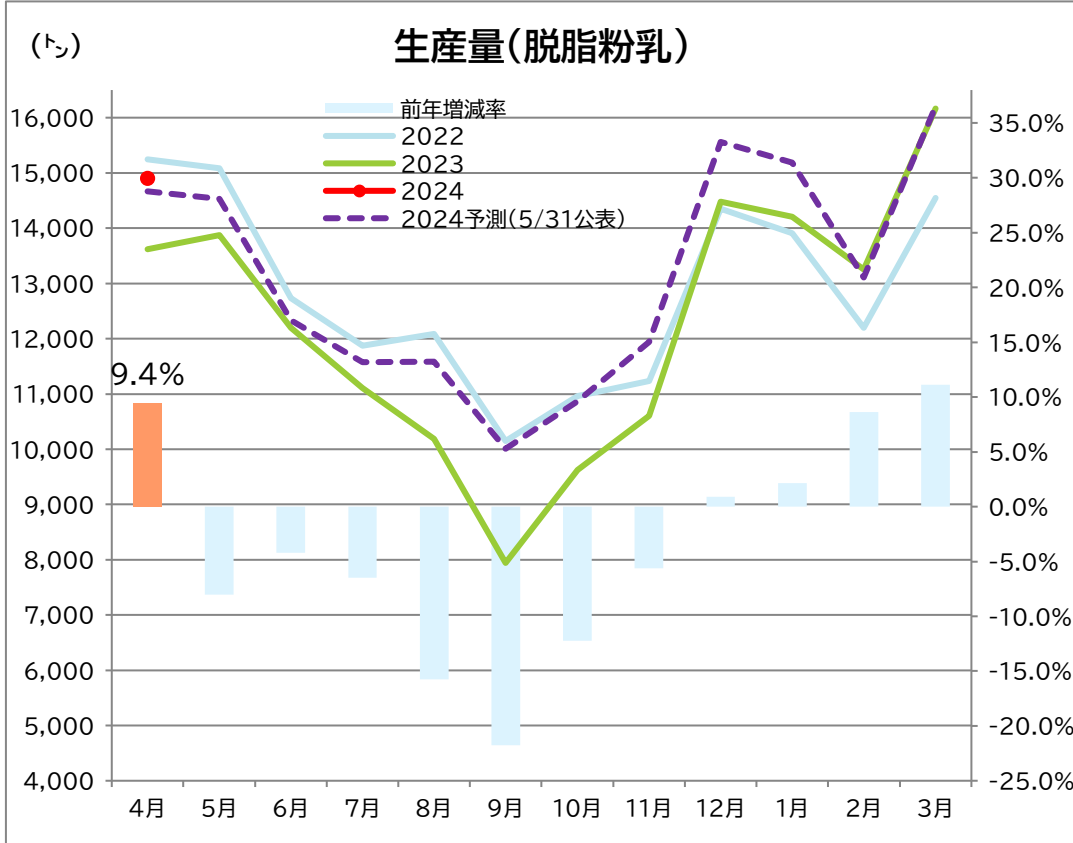


【脱脂粉乳・バターの需給】

(1)脱脂粉乳について、4月の生産量は14.9千ト(前年同月比109.4%)、推定出回り量は11.7千ト(同90.7%)となった。出回り量が生産量を下回ったため、在庫量は前月から3千ト程度増加し、51.0千ト(同78.2%)となった。在庫量は生産抑制の効果による脱バ仕向量の減少や在庫対策削減効果により、2023年9月には2018年11月以来、約5年振りに5万ト台となり、2024年3月には約8年振りに4万ト台となっていた。 ※なお、推定出回り量の実績には在庫対策による国産脱脂粉乳への置換分を含む。

(2)バターについて、4月の生産量は7.3千ト(同110.8%)、推定出回り量は6.4千ト(同82.0%)となった。バターの生産量が前年同期比を上回るのは3カ月連続。国家貿易による輸入売渡分(約0.6千ト)も考慮すると、在庫量は前月から1.5千ト程度増加し、25.9千ト(同89.3%)となった。在庫量は24カ月連続で前年を下回っている。

➡脱脂粉乳とバターの需要のアンバランスが表面化するなか、飲用需要が低調に推移している。脱脂粉乳は、積み増しを避けるべく需要拡大や理解醸成活動による消費の底上げを図るとともに、全国協調の在庫削減対策による国産脱脂粉乳の国内需要拡大や輸出など、引き続き最大限取り進める必要がある。バターは、消費動向を注視し、国家貿易による対応も含めて需要に対応した安定供給に努める必要がある。



【牛乳類の販売速報(推定値):インテージSRI+】 ※量販店・コンビニ等、小売店の販売実績

(1)5月の動向(表①参照)

・販売個数は、牛乳:前年同月比96.4%、成分調整牛乳:同84.3%、加工乳:同112.3%、乳飲料:同99.6%。牛乳類全体:同96.4%

【参考】2022年5月比…牛乳:92.4%、成分調整牛乳:71.7%、加工乳:101.6%、乳飲料:98.4%(牛乳類トータル:91.9%)

(2)直近の週次動向(表②・グラフ参照)

・直近(6/3週)の販売個数は、牛乳:前年同期比98.9%、成分調整牛乳:同85.6%、加工乳:同114.6%、乳飲料:同102.9%。牛乳類トータルでは同98.9%

出典 (株)インテージSRI+週データ。販売本数、販売単価(税抜)については推定値。データ転用はご遠慮下さい。

※2024年6月以降、販売データの対象となる業態についてホームセンターのうちディスカウント型店舗が対象外となりました。

販売本数は、過去のデータにも遡りディスカウント型店舗の販売本数を除外するように修正しておりますのでご留意願います。

【表① 牛乳類の月別販売動向】

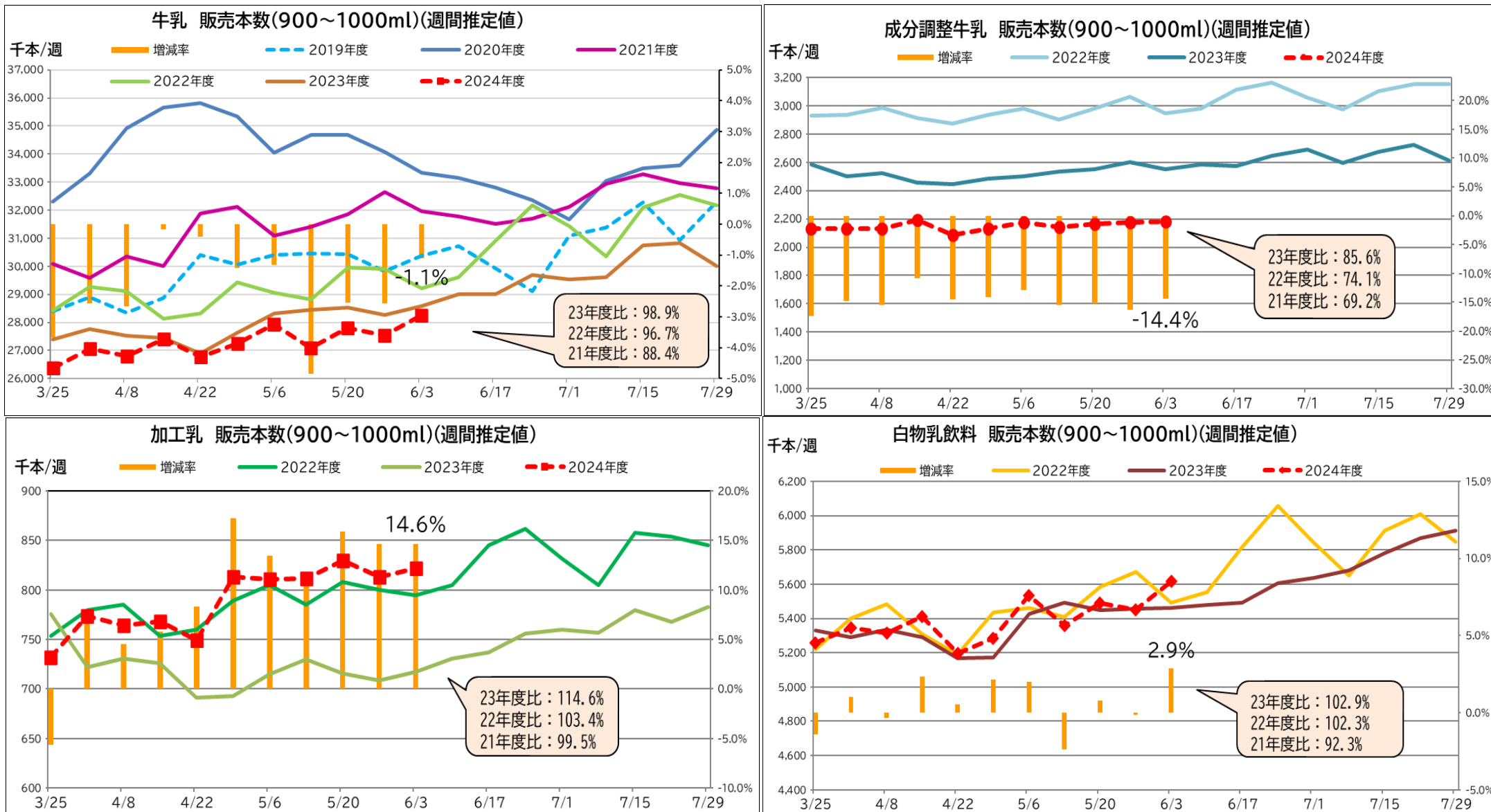
単位:千個、円

品目	区分	2023/12-	2024/1-	2024/2-	2024/3-	2024/4-	2024/5-	2024/5-	2024/5-	2024/5-
								2022/10価格差	2023/3価格差	2023/7価格差
トータル	販売個数	152,434	145,857	140,276	152,636	152,983	158,129	32.7	17.6	15.8
	販売個数前年比	96.1	95.7	99.8	97.4	97.6	96.4			
	販売単価	216.9	217.0	216.6	216.2	215.7	215.8			
牛乳	販売個数	116,060	111,001	106,932	116,610	117,020	120,893	34.7	18.4	17.6
	販売個数前年比	96.9	96.6	100.7	98.1	97.9	96.4			
	販売単価	226.1	226.5	225.9	225.4	224.7	224.9			
成分調整牛乳	販売個数	9,602	9,065	8,793	9,410	9,241	9,425	34.5	18.8	15.3
	販売個数前年比	82.5	82.7	87.0	85.0	85.8	84.3			
	販売単価	208.8	208.7	208.2	207.8	207.9	208.0			
加工乳	販売個数	3,333	3,178	2,992	3,231	3,363	3,624	26.5	16.8	5.8
	販売個数前年比	102.6	103.8	103.2	99.5	105.1	112.3			
	販売単価	218.4	218.2	219.8	218.9	218.0	216.6			
乳飲料	販売個数	23,439	22,613	21,559	23,385	23,360	24,188	23.8	13.2	9.5
	販売個数前年比	97.6	96.7	101.1	99.1	100.7	99.6			
	販売単価	174.3	173.5	173.7	173.7	173.5	173.3			

【表② 牛乳類の販売動向(直近の週次動向)】

品目	区分	4.15-	4.22-	4.29-	5.6-	5.13-	5.20-	5.27-	6.3-	24.6.3-	24.6.3-	24.6.3-
										22.10.24 価格差	23.3.20 価格差	23.7.24 価格差
トータル	販売個数	35,773	34,805	35,471	36,453	35,392	36,290	35,980	36,880	32.6	17.6	14.6
	販売個数前年比	99.6	98.9	98.6	98.7	95.1	97.4	97.1	98.9			
	販売単価	216.0	216.0	216.0	216.0	216.0	216.0	216.0	215.6			
牛乳	販売個数	27,402	26,772	27,245	27,931	27,079	27,807	27,544	28,260	34.5	17.5	16.5
	販売個数前年比	99.8	99.6	98.6	98.7	95.2	97.4	97.4	98.9			
	販売単価	224.0	225.0	225.0	225.0	225.0	225.0	225.0	224.5			
成分調整牛乳	販売個数	2,190	2,088	2,131	2,178	2,141	2,163	2,174	2,181	34.1	19.1	15.1
	販売個数前年比	89.1	85.4	85.9	87.1	84.6	84.8	83.6	85.6			
	販売単価	208.0	209.0	208.0	208.0	208.0	208.0	208.0	208.1			
加工乳	販売個数	768	749	813	811	812	830	813	822	27.1	16.1	4.1
	販売個数前年比	105.8	108.4	117.3	113.3	111.2	115.8	114.6	114.6			
	販売単価	221.0	222.0	217.0	220.0	217.0	219.0	217.0	219.1			
乳飲料	販売個数	5,413	5,196	5,283	5,533	5,360	5,491	5,450	5,618	23.1	13.1	9.1
	販売個数前年比	102.3	100.6	102.1	102.0	97.6	100.8	99.9	102.9			
	販売単価	174.0	174.0	173.0	173.0	174.0	174.0	174.0	173.1			

【グラフ 各品目直近の販売本数推移】



【ヨーグルト類の販売速報(推定値):インテージSRI+】

(1)直近の週次動向(表⑤参照)

直近(6/3週)の販売個数は、ドリンクタイプ(90~250ml):前年同期比90%以上、個食タイプ(70~130ml):同90%以上、大容量タイプ(350~500ml):同100%以上。はっ酵乳全体としては、前年を下回る推移となっている。(3品目合計前年同期比:90%以上)。

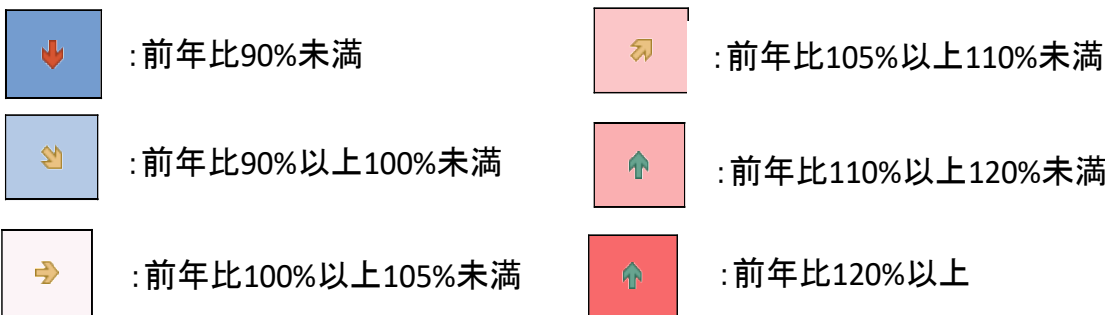
(2)販売個数について、前週(5/27週)と比較して3カテゴリーいずれも増加した。

※出典 (株)インテージSRI+週データ。販売個数については推定値。データ転用はご遠慮下さい。

【表⑤ ヨーグルト類の販売動向】

単位:千個

品目	4.15-	4.22-	4.29-	5.6-	5.13-	5.20-	5.27-	6.3-
ドリンクタイプ	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘
個食タイプ	→	↘	→	↘	↘	↘	↘	↘
大容量タイプ	↘	↘	→	↘	→	→	→	→



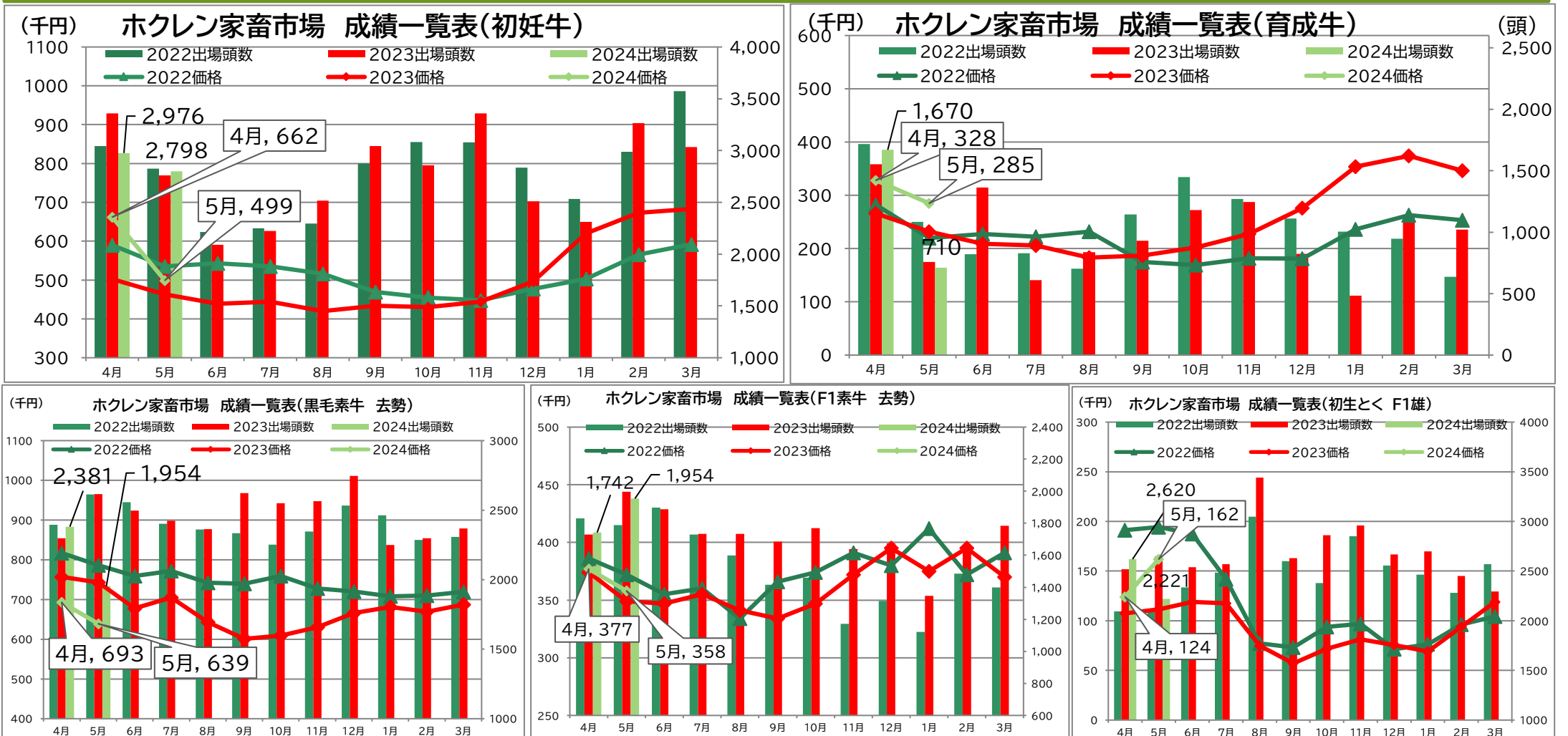
※なお、下地の色が濃いほうが、上記範囲内で前年との増減差が大きいことを表す。

【家畜販売価格動向(税込)】

(1)4月の家畜販売価格動向について、ホクレン家畜市場集計によると、初妊牛価格は499千円(前年同期比107.8%)、育成牛価格は285千円(同122.8%)、和牛素牛(去勢)価格639千円(同86.0%)、F1素牛(去勢)価格は358千円(同102.6%)。初妊牛は5カ月ぶりに40万円台となり、育成牛についても5カ月ぶりに20万円台となった。F1初生(雄)は3カ月連続で10万円を上回った。ホル初生(雄)価格は80千円(同142.0%)と、約2年振りに80千円を上回った(グラフ無し)。

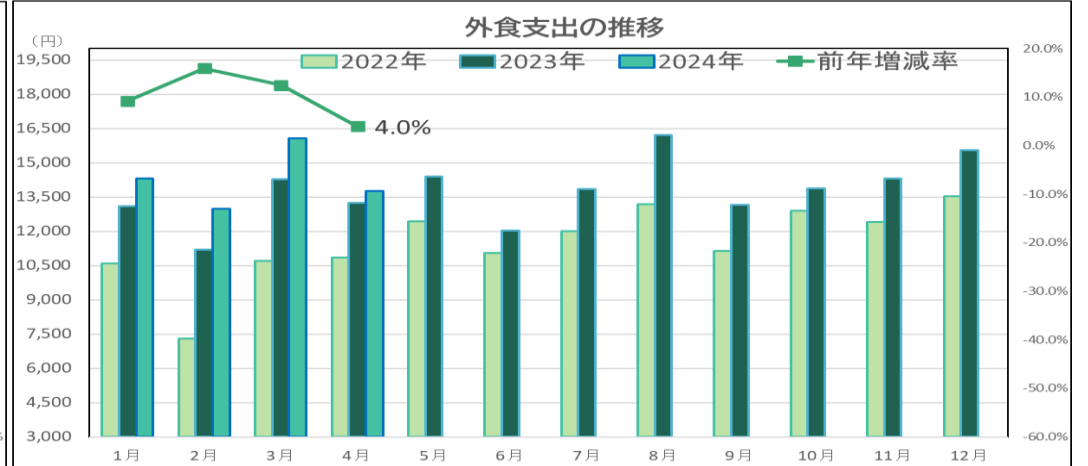
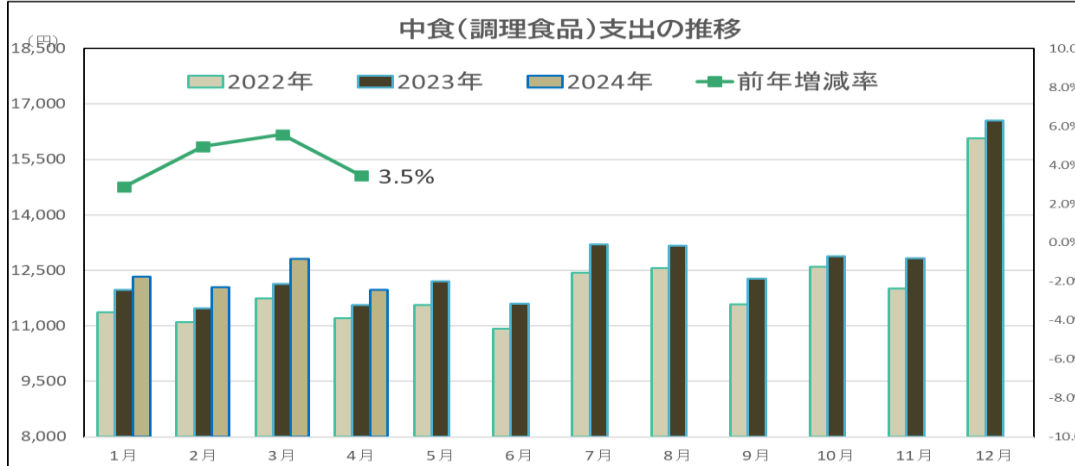
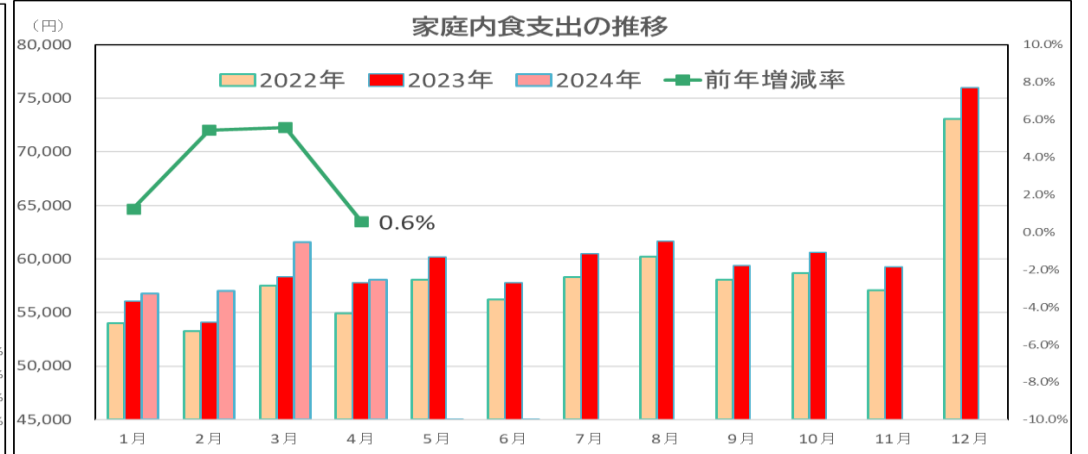
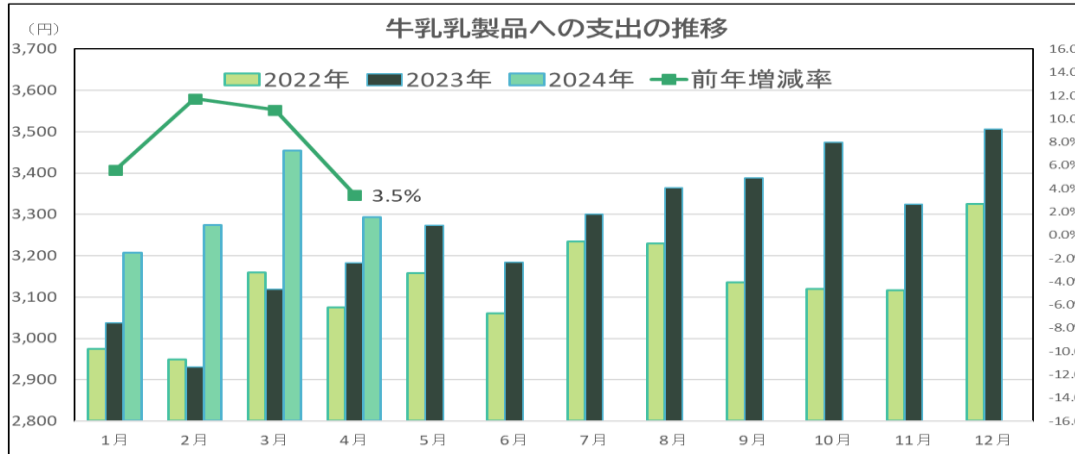
(2)出場頭数(出回り頭数)は、初妊牛:同101.3%、育成牛:同93.7%、F1初生(雄):同83.9%、和牛素牛(去勢):同74.7%、F1素牛(去勢):同97.9%。

※ホクレン家畜市場集計表 速報値(<https://www.kachiku.hokuren.or.jp/Downloadresult.aspx>)

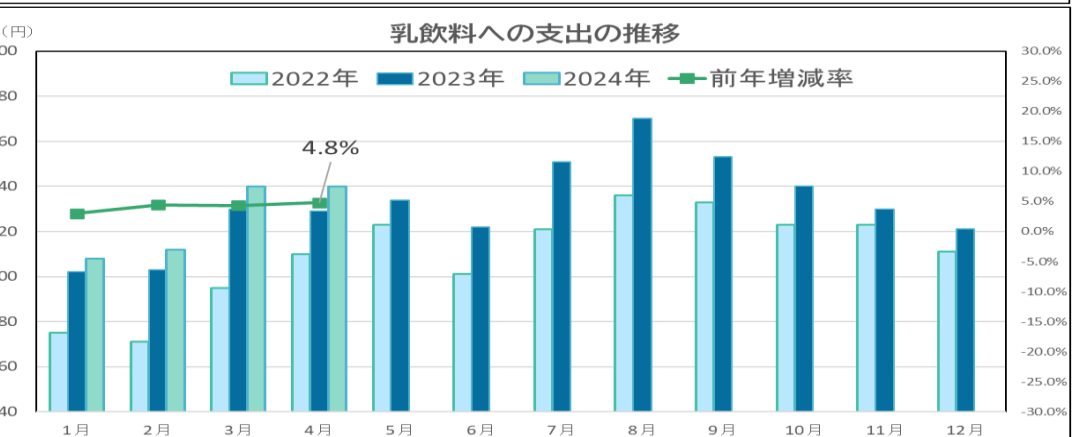
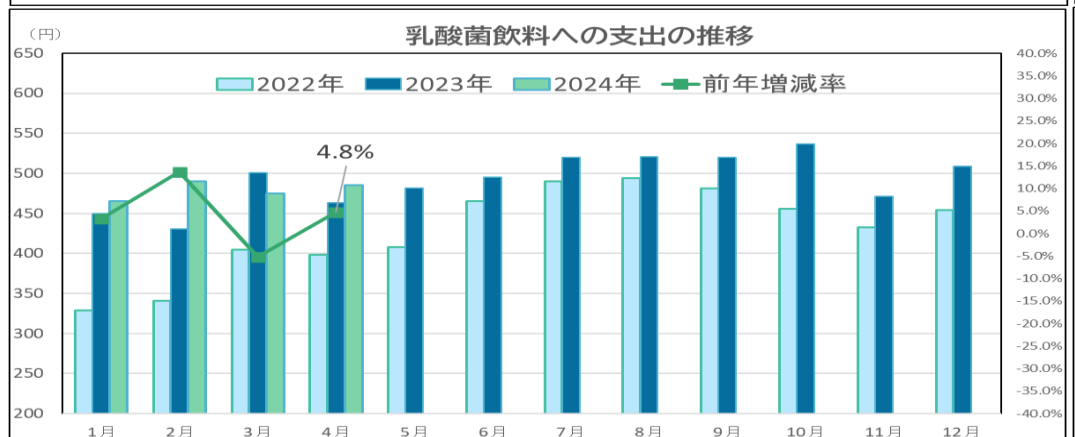
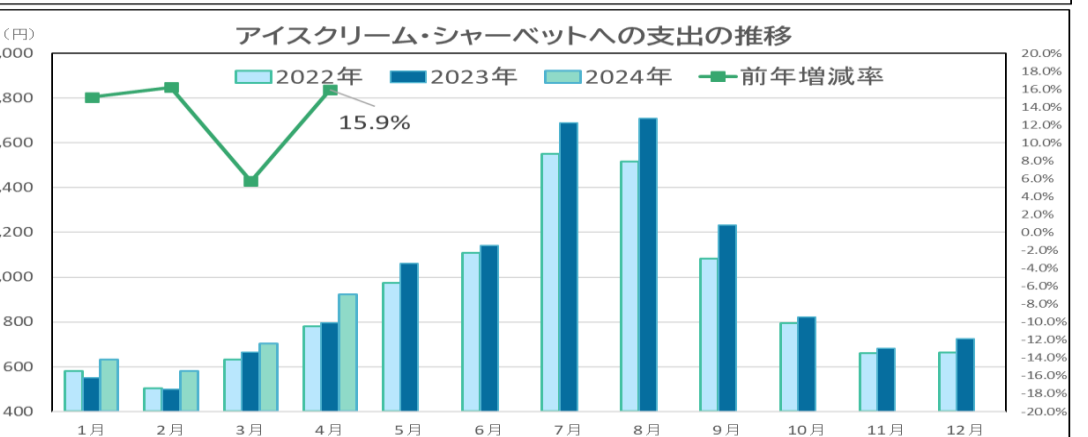
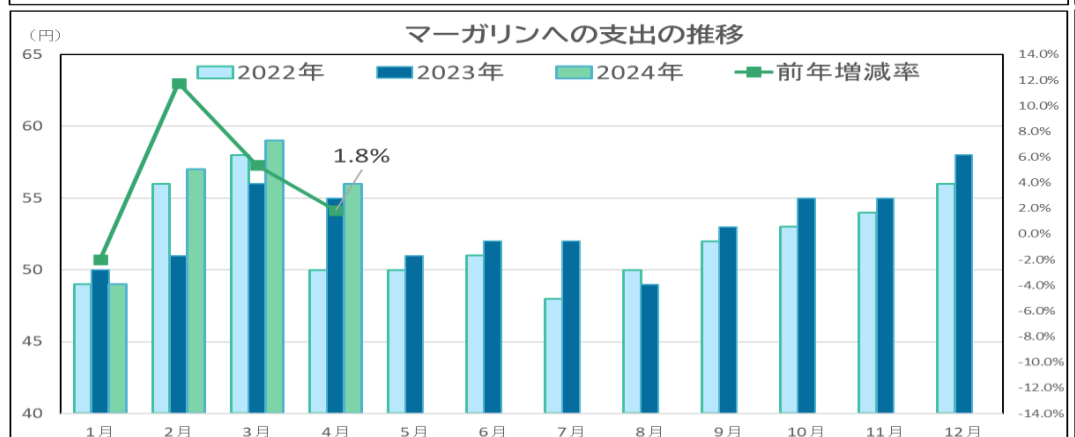
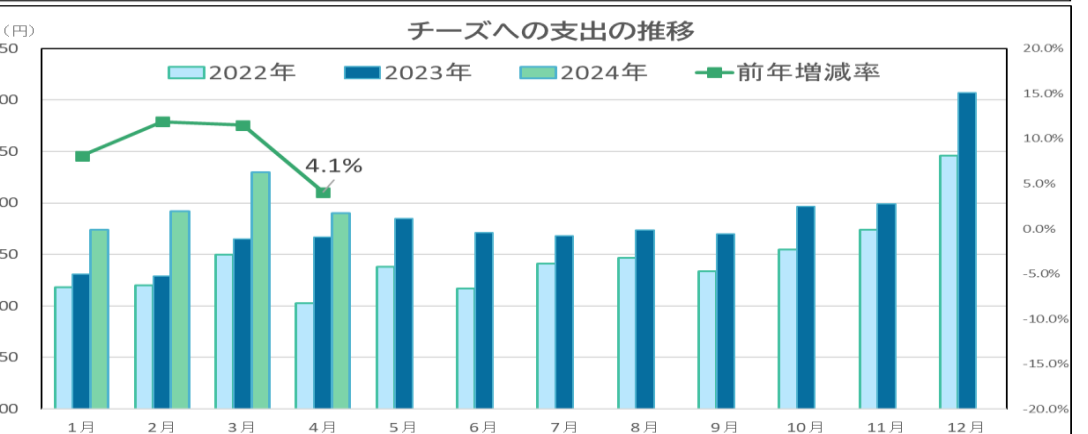
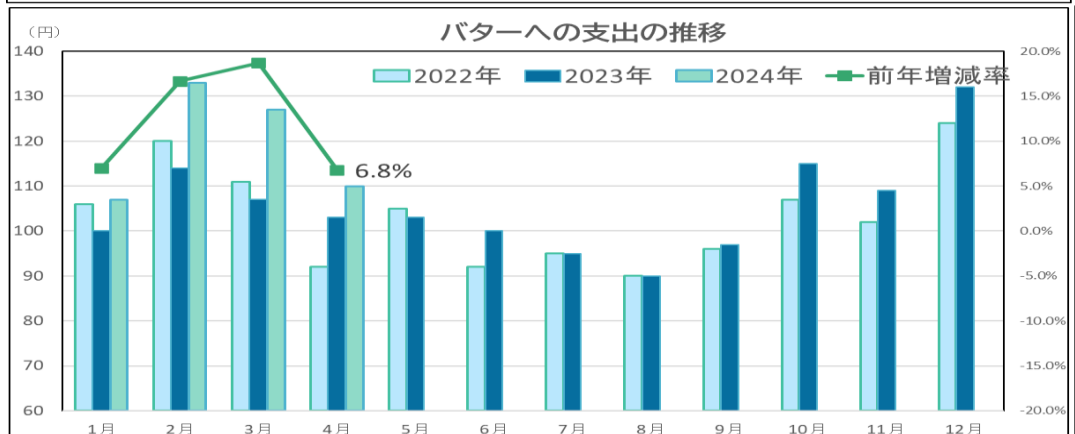
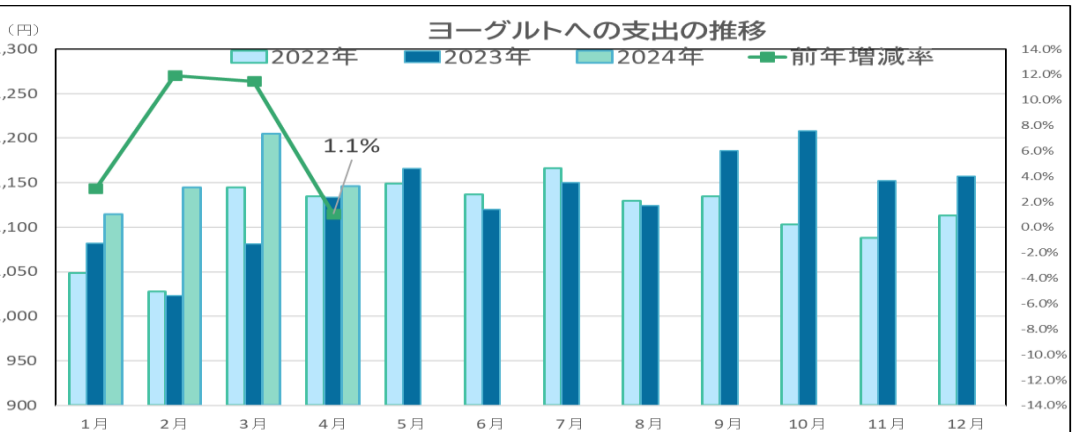
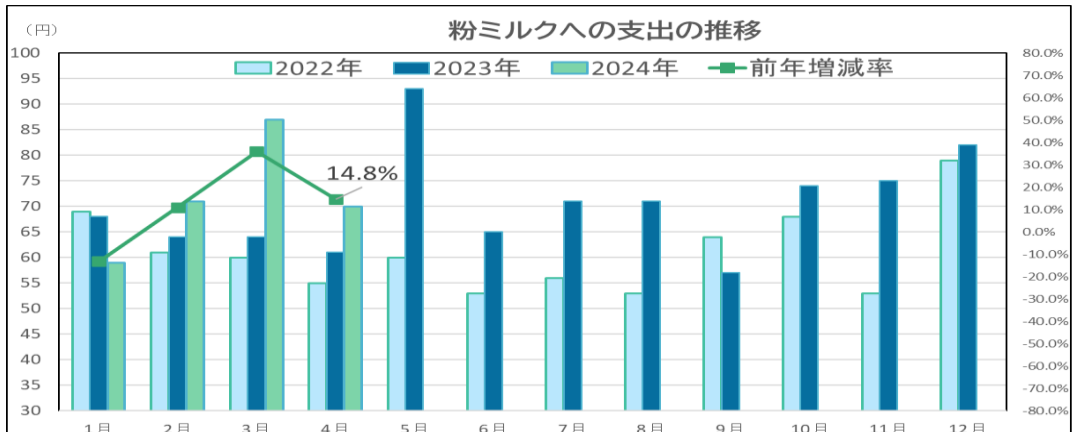


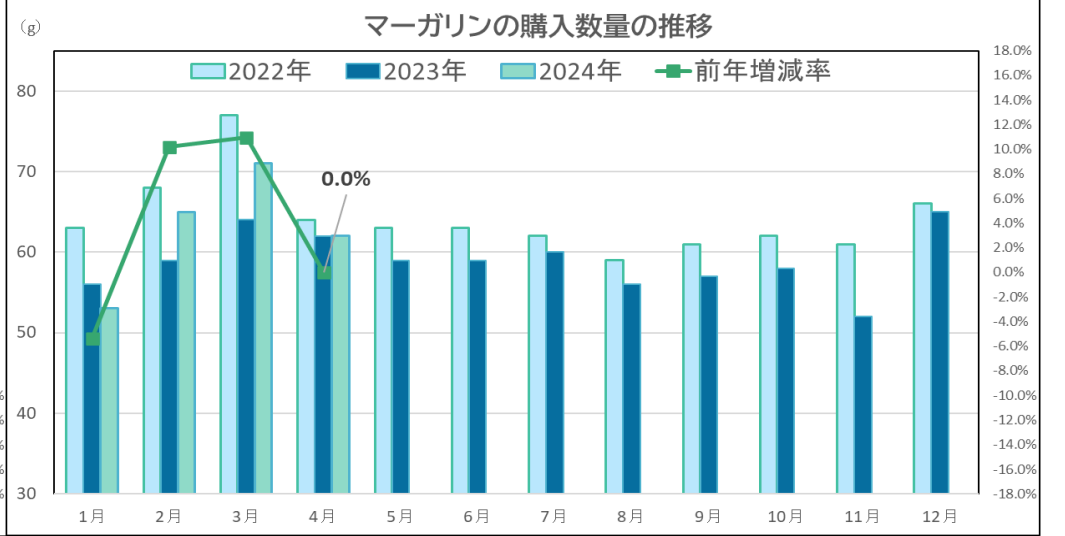
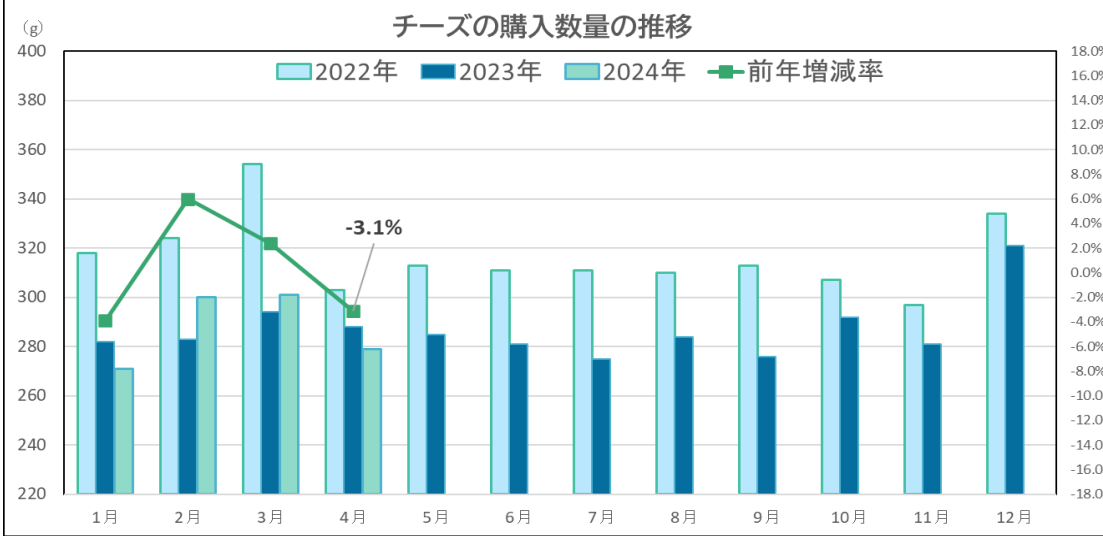
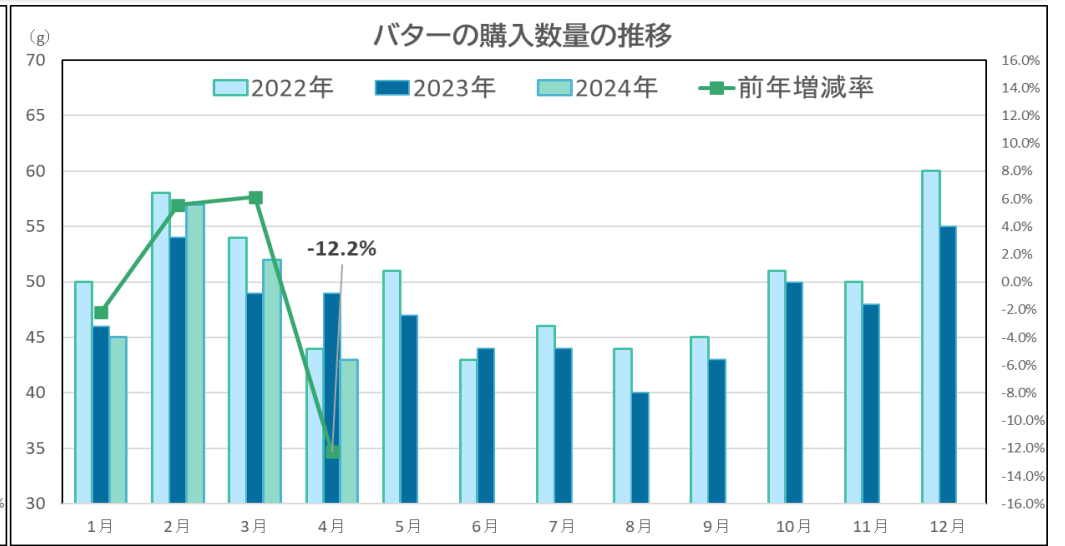
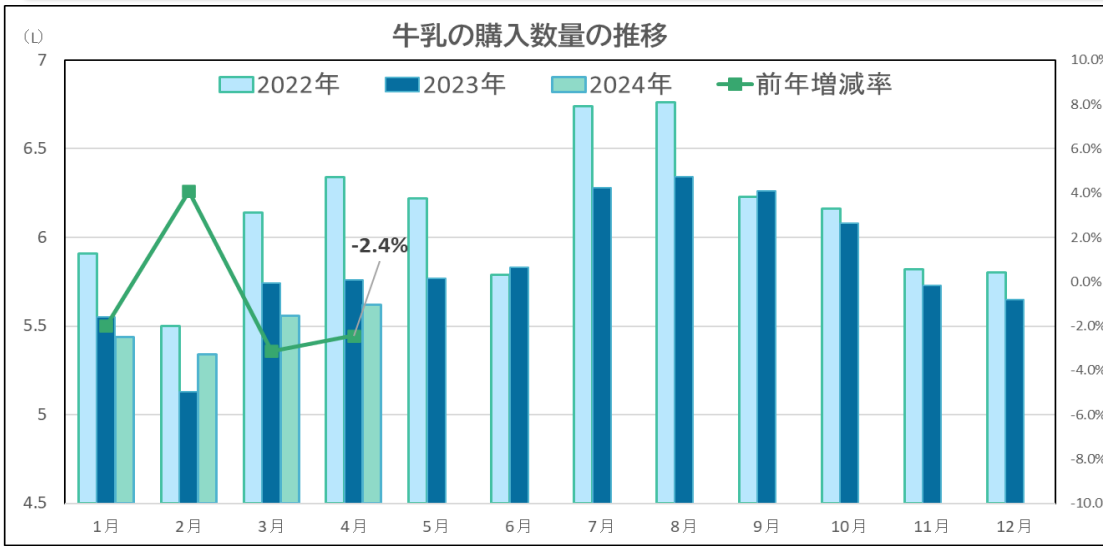
【家計支出の動向】

(1)4月の支出額前年比について、外食104.0%、中食103.5%、内食100.6%といずれも前年を上回り、食料全体への支出額は101.5%となった。
 (2)牛乳乳製品の支出額も前年比103.5%(うち牛乳104.6%、乳製品102.7%)と前年を上回った。
 (3)なお、購入量は、牛乳97.6%(1世帯当たり5.62L)と2カ月連続で前年割れ。バターやチーズも前年を下回った一方、マーガリンは前年超えとなった。
 ※総務省家計調査(二人以上の世帯。家庭内食は、食料-調理食品-外食で独自に算出)



【参考:その他品目支出の動向】



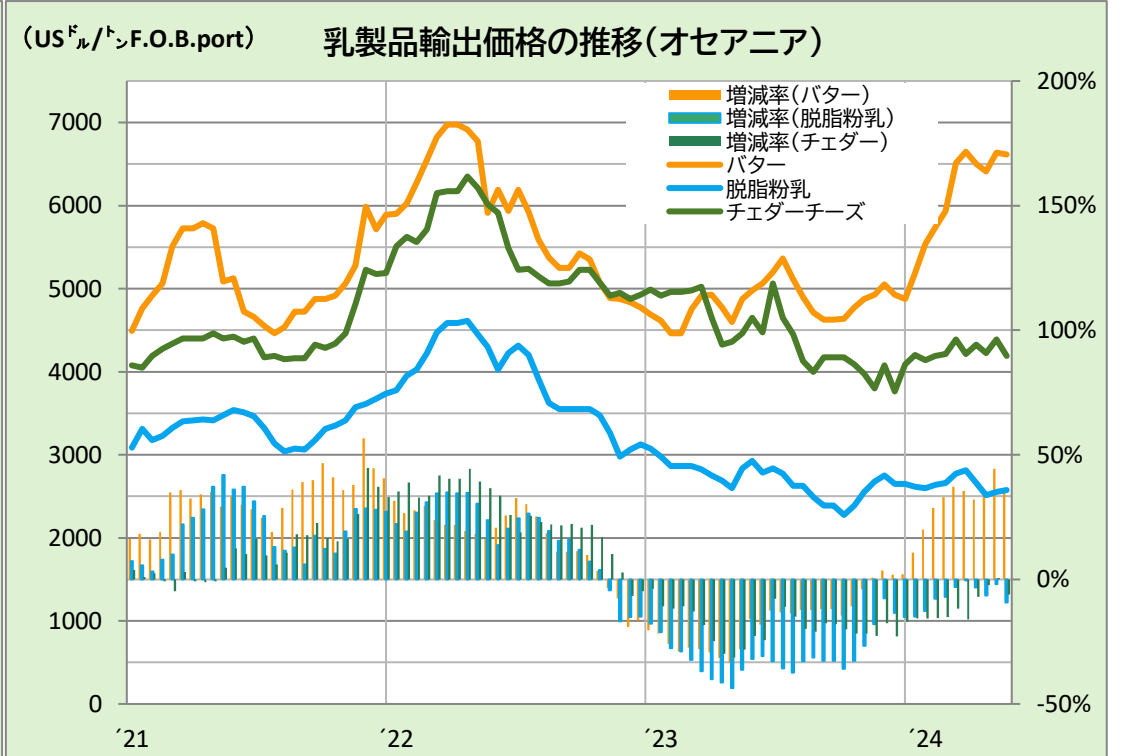
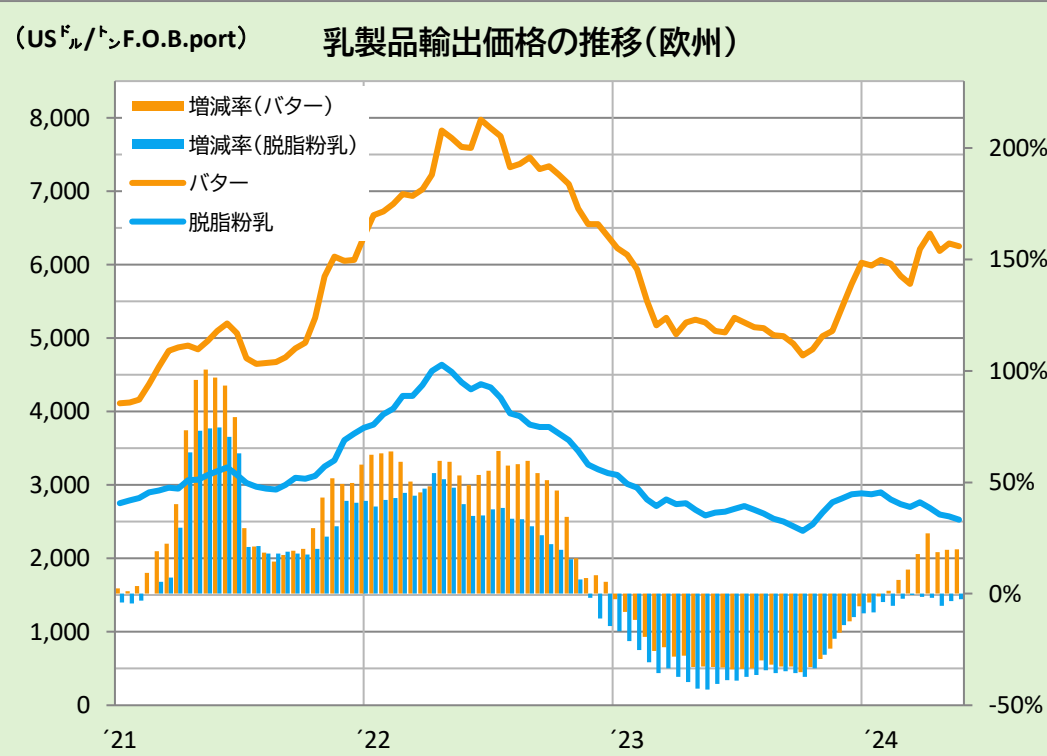


【乳製品輸出価格の動向】

(1)直近の乳製品国際相場について(5月下旬)

- ・欧州:脱脂粉乳2,613ドル/ト、バター6,700ドル/ト中心
- ・オセアニア:脱脂粉乳2,650ドル/ト、バター6,838ドル/ト、チェダーチーズは4,325ドル/ト中心

※出典:米国農務省(USDA)



※「2024年度生乳需要基盤確保事業 独立行政法人農畜産業振興機構 後援」